

平成30年度 調査結果

1 調査結果の概要

本報告書は、一般募集による126名の登録市民調査員の皆様が、任意の場所で調査したサギの数をまとめたものです。今年度は、65名の方（サギ調査票又はコロニー調査票、もしくは両方の調査票を提出していただいた方の数）から報告をいただきました。

なお、サギの個体数は、地域によって市民調査員数や報告件数、観察方法に違いがあることから、多い・少ない等を単純に比較することはできません。

総報告数は、述べ701件（いなかった、という報告は含まれていません。調査期間外、大津市以外からの報告は集計に含まれていません。）で、そのうちサギ調査票報告数は686件、コロニー調査票報告数は15件でした。報告されたサギの総発見数は1,908羽で、そのうちサギ調査票での発見数は1,865羽、コロニー調査票での発見数は43羽でした。この中には下記の種類のサギが含まれました。

ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギ、アマサギ、シラサギ（※見つけたサギの種類が不明な場合はシラサギに含む）

結果の解析にあたって、調査員の皆様からいただいた報告を、以下のように反映させました。

- ① 学区区分については、報告にあったメッシュコードを各学区に振り分けました。
- ② 報告に標高の記載のないものについては、メッシュコード内の代表地点を決定し（例：学校や駅などの構造物、大きな道路の交差点など）、その代表地点の標高をメッシュの標高として扱い、標高別の解析に用いました。そのため、高低差が大きいメッシュコードの地点については、厳密には正しくない場合があります。
- ③ メッシュコードの記載がなかったものについては、見つけた場所の情報等からメッシュコードを特定し、入力させていただきました。
- ④ コロニー調査票で、サギの種類が特定できないという報告があった場合、サギ調査票と同様にシラサギとしました。
- ⑤ 報告における、「おそらく〇〇サギである」や「〇〇サギ？」といった記載は、「〇〇サギ」として扱いました。見つけたサギの種類が不明な場合はシラサギと記載しています。
- ⑥ 場所の種類については、複数にチェックがあったものについては、周辺的环境と照合し、1つに変更させていただきました。
- ⑦ 調査員の皆様からいただいた報告データは、誤字脱字や添付写真のサギの種類名等、明らかに間違いであるもの以外、いただいた内容のままでまとめております。

Fig 1. 大津市内学区区分図（平成30年度）



2 メッシュ別報告結果

大津市内のどのような場所で、どのようなサギが発見されたかをまとめました。

Table 1. メッシュ別報告結果 サギ調査票より集計

メッシュ 番号	学区	発見数 (羽)	報告数 (件)	標高 (m)	生息環境	サギの種類
6797	小松	4	1	100	水田	チュウサギ
6765	小松	6	3	100	水田	ダイサギ チュウサギ コサギ
6755	木戸	39	12	90	水田	ダイサギ チュウサギ アオサギ アマサギ シラサギ
6723	木戸	1	1	100	河川（水路）	アオサギ
6703	和邇	8	7	100	水田 河川（水路）	シラサギ
5794	和邇	4	4	90	水田 河川（水路）	アオサギ シラサギ
5793	和邇	24	9	100	水田 その他（飛行中など）	ダイサギ チュウサギ アオサギ
5785	和邇	2	2	85	河川（水路）	コサギ アオサギ
5784	和邇	821	142	85	神社 水田 河川（水路） 雑木林（竹林） その他（飛行中など）	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
5783	和邇	4	4	90	水田 河川（水路） 雑木林（竹林）	コサギ アオサギ
5774	小野	106	58	85	水田 河川（水路）	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ アマサギ シラサギ
5764	小野	1	1	90	水田	チュウサギ
5761	真野	2	2	150	水田	ダイサギ
5760	伊香立	10	8	140	水田	ダイサギ アオサギ
5754	堅田	7	4	85	河川（水路）	ダイサギ チュウサギ アオサギ
5753	真野	20	7	95	水田 河川 その他（飛行中など）	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
5752	真野	1	1	105	水田	ダイサギ
5751	伊香立	1	1	135	水田	ダイサギ
5750	伊香立	4	2	165	水田	アオサギ シラサギ

メッシュ 番号	学区	発見数 (羽)	報告数 (件)	標高 (m)	生息環境	サギの種類
5744	堅田	4	2	85	河川（水路）	チュウサギ シラサギ
5743	堅田	2	2	85	水田 河川（水路）	ダイサギ アオサギ
5733	堅田	9	2	85	その他（飛行中など）	ダイサギ シラサギ
5732	堅田	16	12	100	水田 河川（水路） 雑木林（竹林） その他（飛行中など）	チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
5730	仰木	4	4	155	水田	ダイサギ チュウサギ
5723	堅田	5	4	90	水田 河川（水路）	ダイサギ コサギ アオサギ シラサギ
5722	堅田	4	4	120	水田 琵琶湖岸・林 その他（飛行中など）	ダイサギ アオサギ
5720	仰木	2	2	180	水田	アオサギ シラサギ
5711	仰木の里	3	3	100	水田 その他（飛行中など）	アオサギ シラサギ
5669	伊香立	1	1	175	水田	アオサギ
5629	仰木	16	12	275	水田 その他（飛行中など）	ダイサギ チュウサギ アオサギ シラサギ
5627	仰木	1	1	670	水田	アオサギ
4791	雄琴	16	2	90	水田 琵琶湖岸・林	チュウサギ コサギ
4781	下阪本	1	1	85	水田	アオサギ
4780	坂本	16	6	95	河川（水路） 琵琶湖岸・人工物 雑木林（竹林） その他（飛行中など）	チュウサギ コサギ アオサギ
4770	下阪本	8	8	85	水田	アオサギ シラサギ
4760	下阪本	13	8	90	水田 河川（水路）	コサギ アオサギ シラサギ
4701	平野	2	2	85	琵琶湖岸・人工物	ダイサギ アオサギ
4700	平野	3	3	90	琵琶湖岸・人工物	アオサギ
4689	坂本	5	4	140	河川（水路）	アオサギ
4679	坂本	54	48	175	水田	コサギ アオサギ シラサギ
4669	唐崎	28	14	125	水田	チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
4659	唐崎	5	4	90	水田 河川（水路）	チュウサギ コサギ アオサギ
4649	唐崎	3	3	85	水田 河川（水路）	ダイサギ アオサギ

メッシュ 番号	学区	発見数 (羽)	報告数 (件)	標高 (m)	生息環境	サギの種類
4648	滋賀	2	1	125	水田	アオサギ
4639	滋賀	17	15	90	水田 河川（水路） 琵琶湖岸・人工物 琵琶湖岸・林	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
4629	長等	3	3	90	河川（水路） 琵琶湖岸・人工物	コサギ アオサギ シラサギ
4628	滋賀	1	1	90	その他（飛行中など）	アオサギ
4619	長等	33	29	80	河川（水路） 琵琶湖岸・人工物 その他（飛行中など）	アオサギ
4618	長等	15	15	95	河川（水路） 琵琶湖岸・人工物	アオサギ
4609	中央	2	2	100	河川（水路） 琵琶湖岸・人工物	アオサギ
3793	瀬田北	4	3	85	水田 その他（飛行中など）	ダイサギ チュウサギ アオサギ
3791	膳所	10	10	85	河川（水路） 琵琶湖岸・人工物 琵琶湖岸・ヨシ原	ダイサギ コサギ アオサギ シラサギ
3785	瀬田東	2	2	115	水田	チュウサギ アオサギ
3784	瀬田北	4	4	90	水田	チュウサギ アオサギ
3783	瀬田北	33	26	90	水田 河川（水路） 琵琶湖岸・人工物 その他（飛行中など）	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
3782	膳所	1	1	85	琵琶湖岸・人工物	チュウサギ
3781	膳所	3	3	90	琵琶湖岸・人工物	ダイサギ アオサギ シラサギ
3778	青山	30	16	50	水田 その他（飛行中など）	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ
3777	青山	3	2	125	その他（飛行中など）	アオサギ
3772	晴嵐	3	3	85	琵琶湖岸・人工物	ダイサギ アオサギ
3769	青山	1	1	160	その他（飛行中など）	アオサギ
3768	青山	20	15	145	水田	ダイサギ チュウサギ アオサギ シラサギ
3762	晴嵐	2	2	105	河川（水路） 琵琶湖岸・人工物	アオサギ
3756	上田上	2	1	130	水田	アオサギ
3747	平野	15	6	125	水田 雑木林（竹林）	ダイサギ コサギ アオサギ

メッシュ 番号	学区	発見数 (羽)	報告数 (件)	標高 (m)	生息環境	サギの種類
3746	上田上	4	2	100	水田	アオサギ シラサギ
3745	上田上	11	5	110	水田 河川（水路）	ダイサギ アオサギ シラサギ
3742	石山	1	1	125	水田	チュウサギ
3736	上田上	4	3	100	水田 河川（水路）	チュウサギ コサギ アオサギ
3735	上田上	45	15	95	水田 河川（水路）	ダイサギ チュウサギ アオサギ アマサギ シラサギ
3734	田上	54	9	95	河川（水路） 雑木林（竹林）	アオサギ シラサギ
3731	石山	4	1	140	水田	アオサギ
3724	田上	134	19	105	水田 河川（水路）	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
3723	田上	61	18	85	水田 河川（水路） 雑木林（竹林）	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
3722	南郷	27	17	90	河川（水路）	ダイサギ アオサギ シラサギ
3721	南郷	3	2	125	水田 河川（水路）	ダイサギ ゴイサギ
3713	田上	14	5	90	河川（水路）	チュウサギ アオサギ シラサギ
3702	南郷	2	2	210	水田	ダイサギ アオサギ
3021	上田上	1	1	220	その他（飛行中など）	ダイサギ
2793	南郷	1	1	245	河川（水路）	アオサギ
2782	大石	4	1	100	河川（水路）	ダイサギ
2773	大石	3	2	85	水田 河川（水路）	アオサギ シラサギ

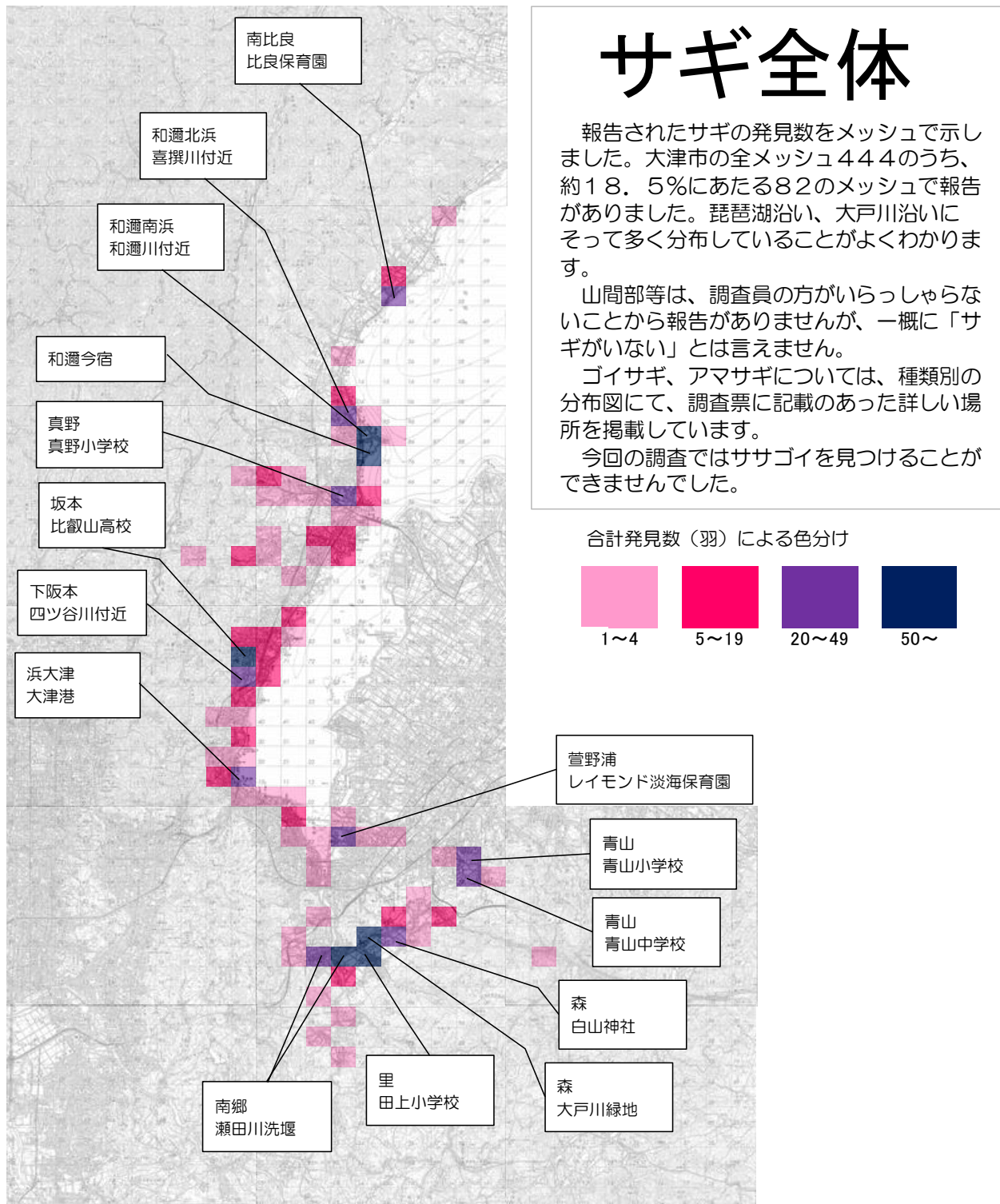
3 発見数別メッシュ分布図

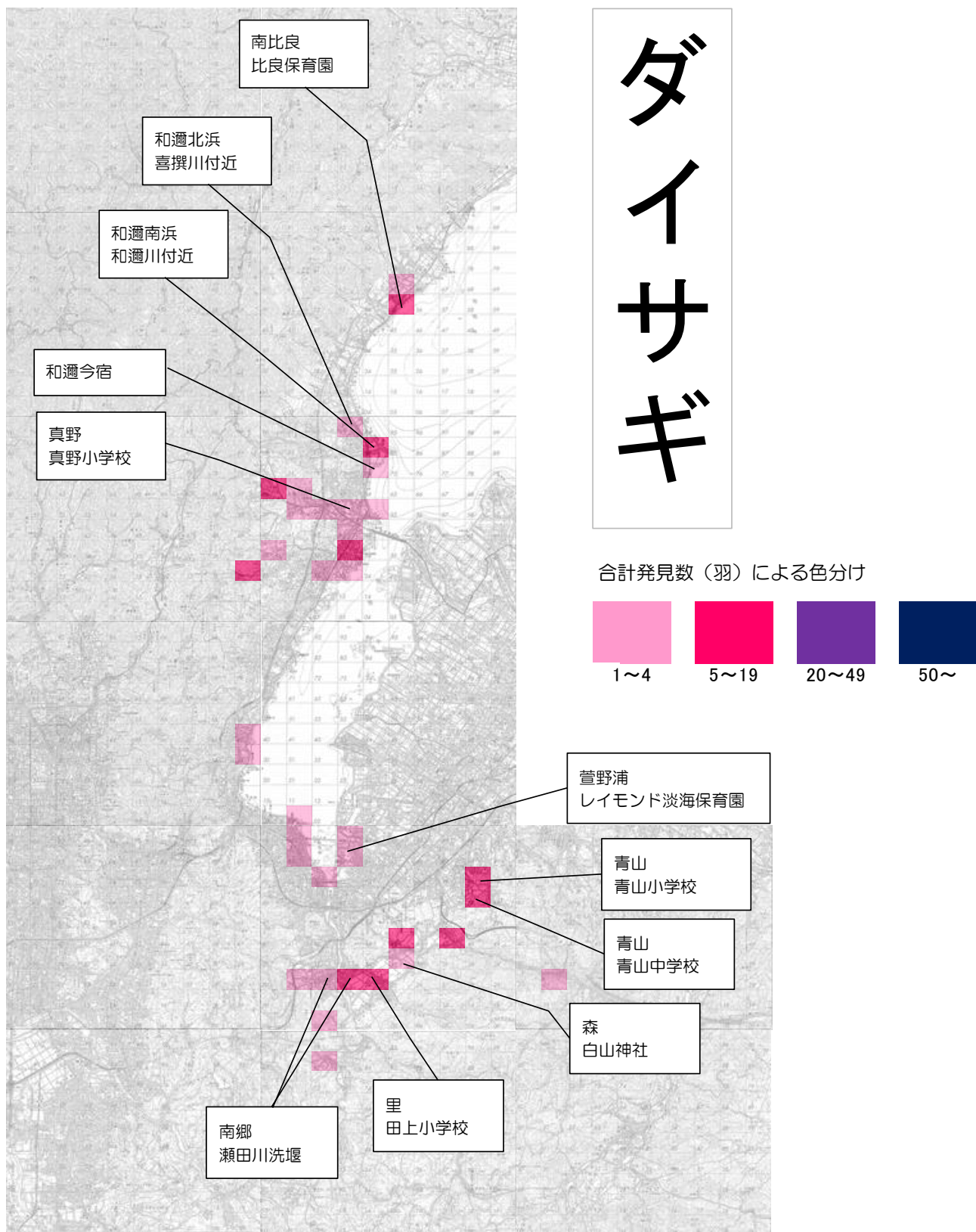
調査員の皆様による、サギ全体のメッシュ分布図、サギの種類別メッシュ分布図、コロニー全体のメッシュ分布図を掲載します。

なお、図下部に示した■については、考察を掲載しています。

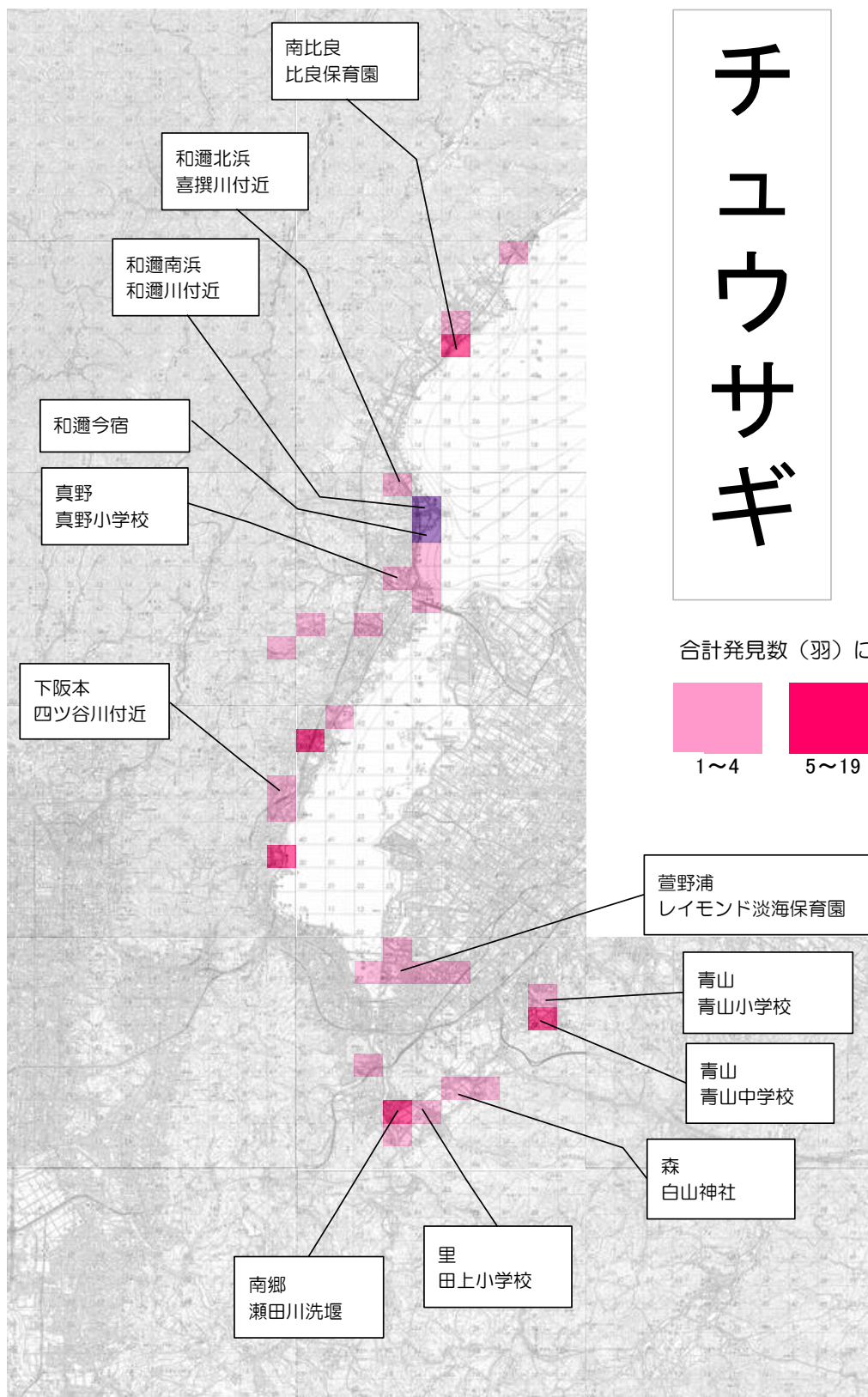
Fig2. 発見数別メッシュ分布図

サギ調査票より集計

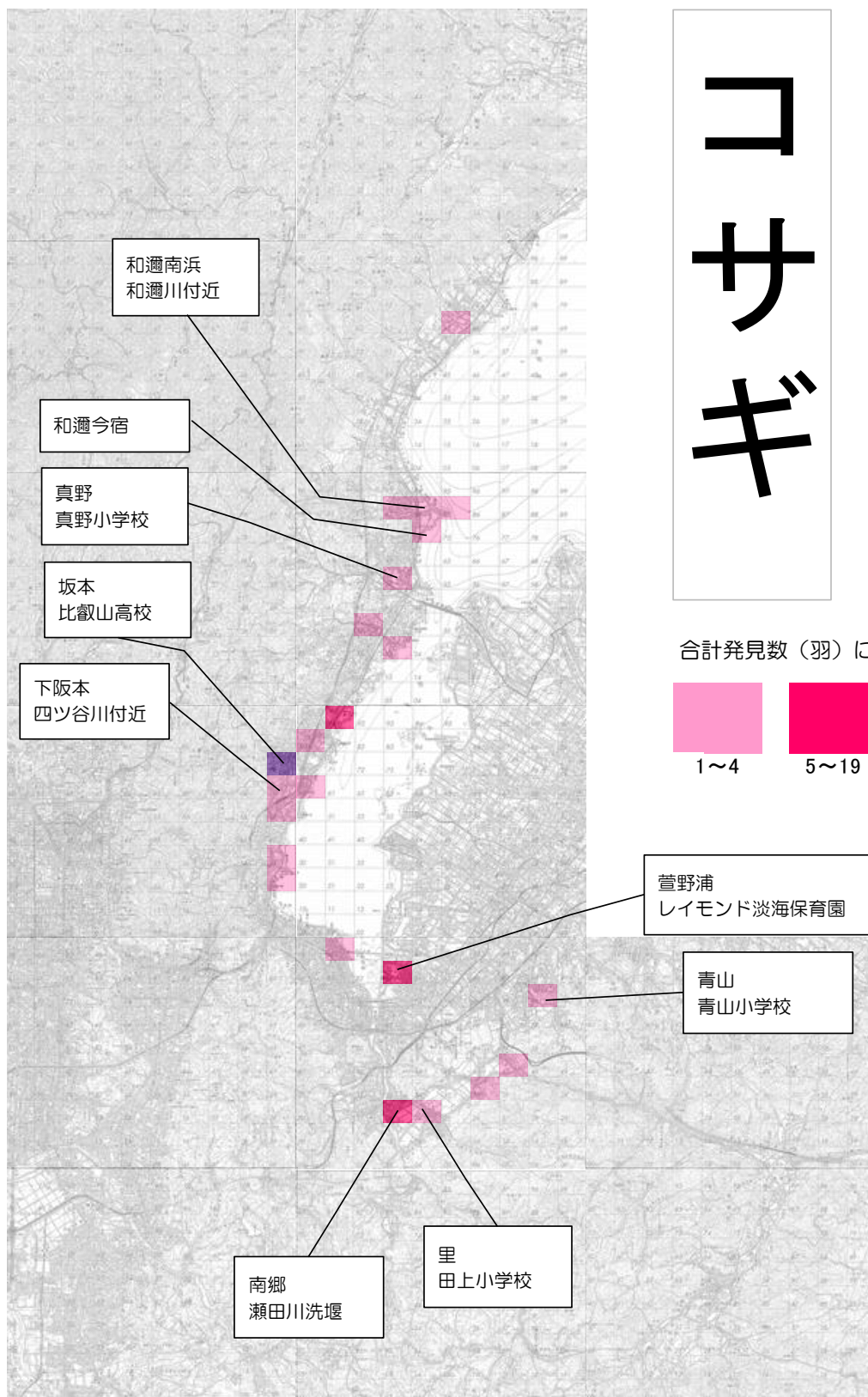




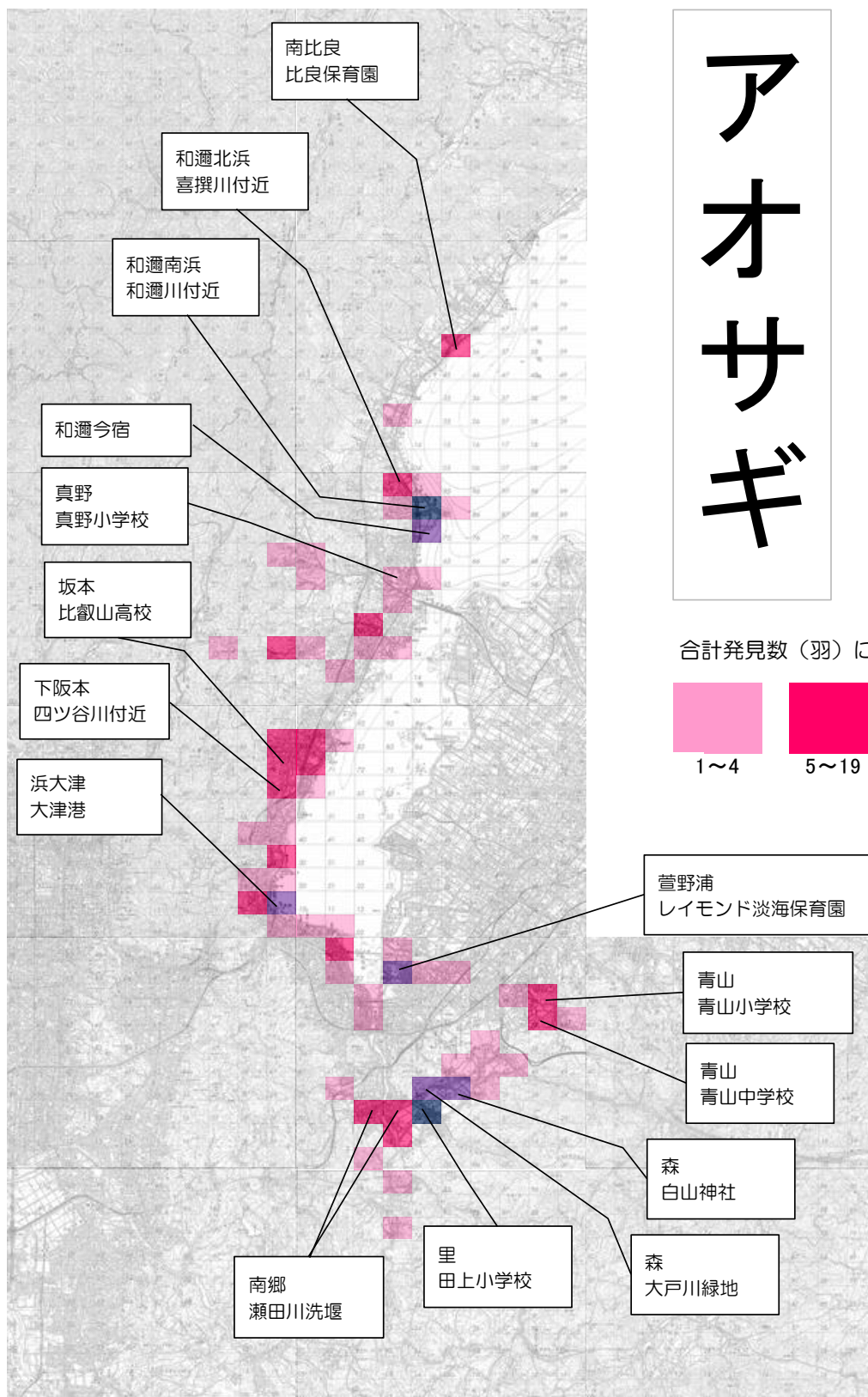
- シラサギ類は、市街地である浜大津を境に南北に分かれて生息しています。
- ダイサギ、アオサギは、琵琶湖の魚を食べます。



- シラサギ類は、市街地である浜大津を境に南北に分かれて生息しています。
- 大津市内でコロニーがあります。（P 4 5参照）
- チュウサギは、田んぼの生き物を食べます。



■シラサギ類は、市街地である浜大津を境に南北に分かれて生息しています。



- 大津市内の多くの地域で見ることが出来ます。
- 大津市内にコロニーがあります。（P 4 5参照）
- ダイサギ、アオサギは、琵琶湖の魚を食べます。

ゴイサギ

合計発見数（羽）による色分け



1～4



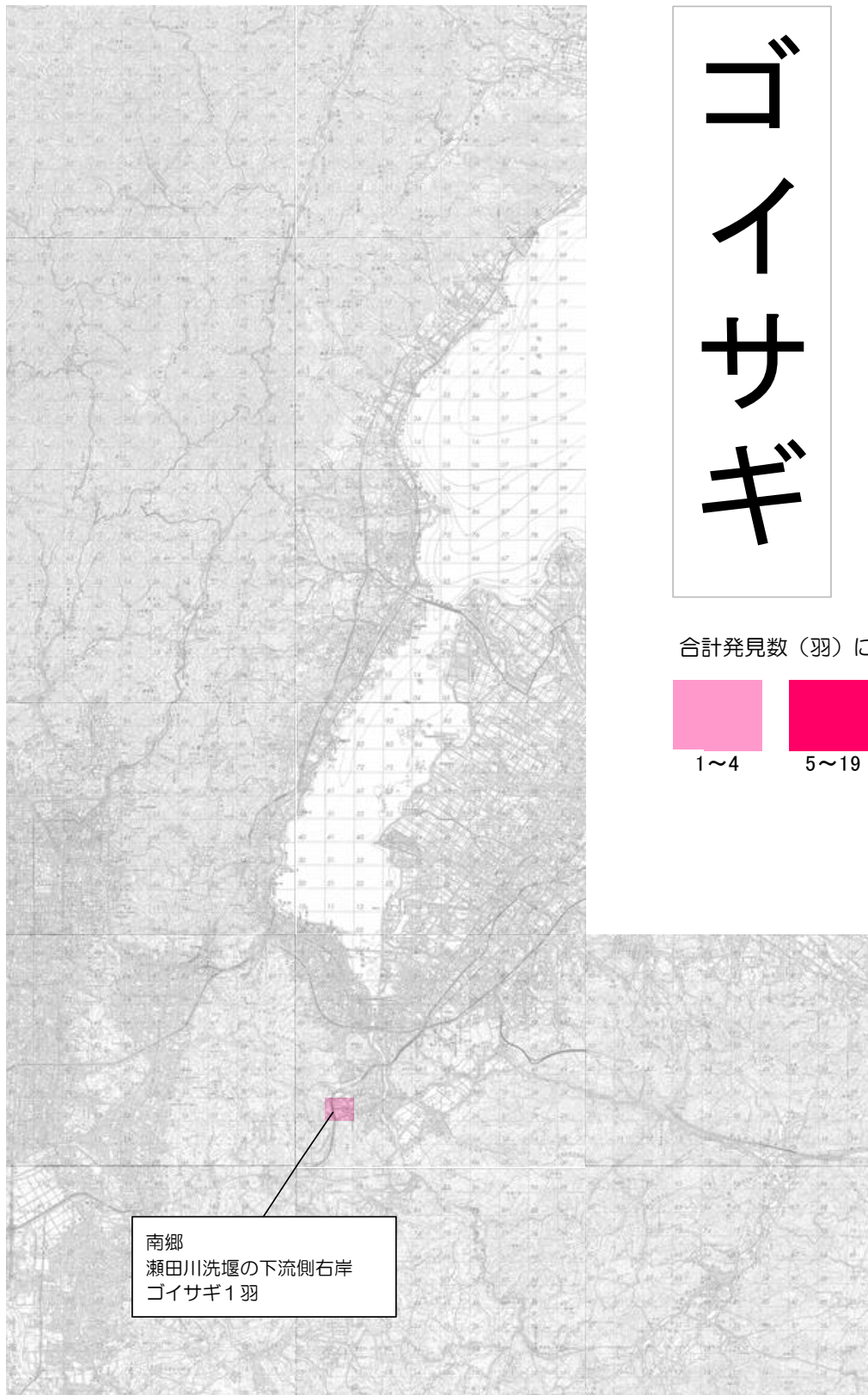
5～19



20～49

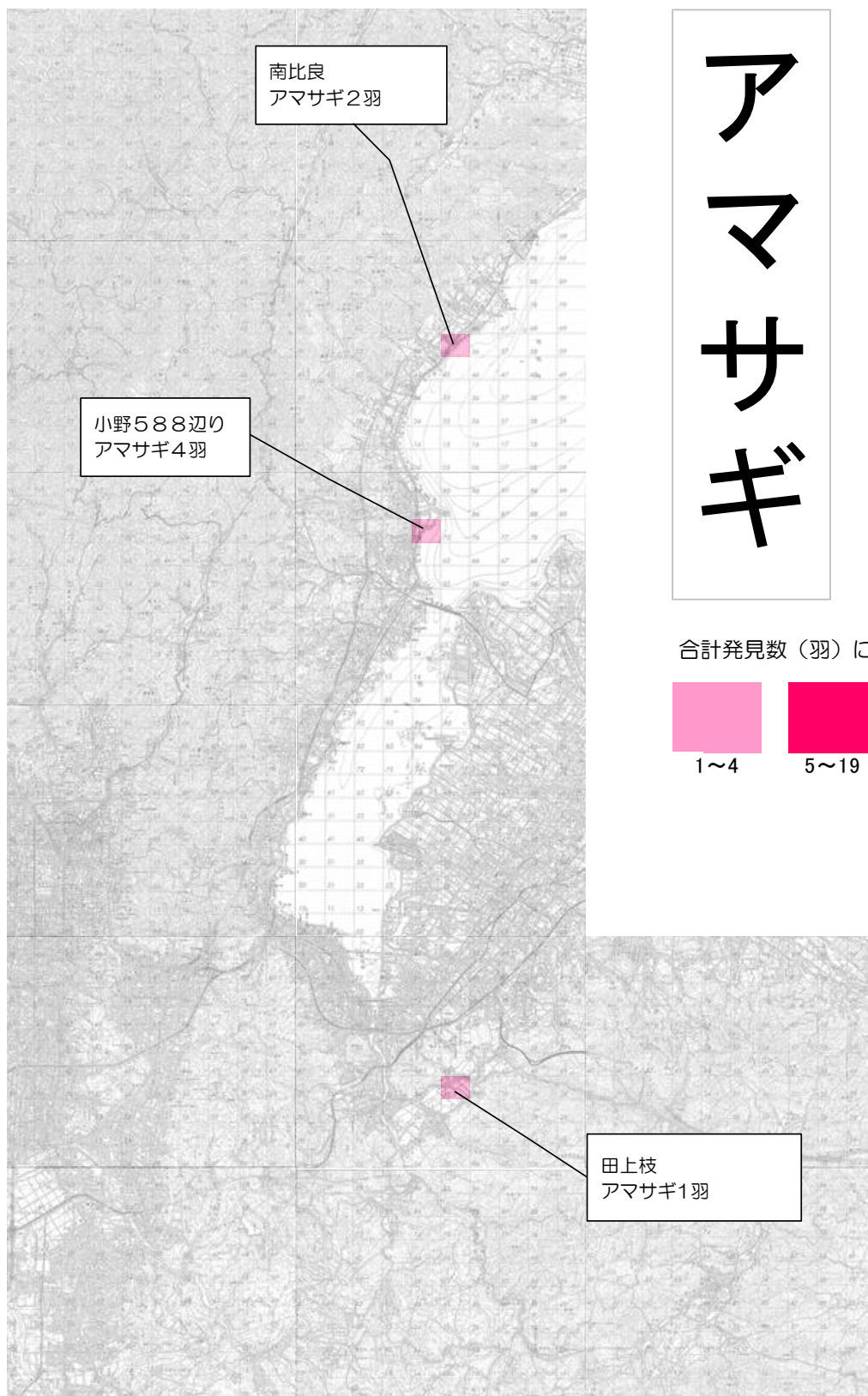


50～

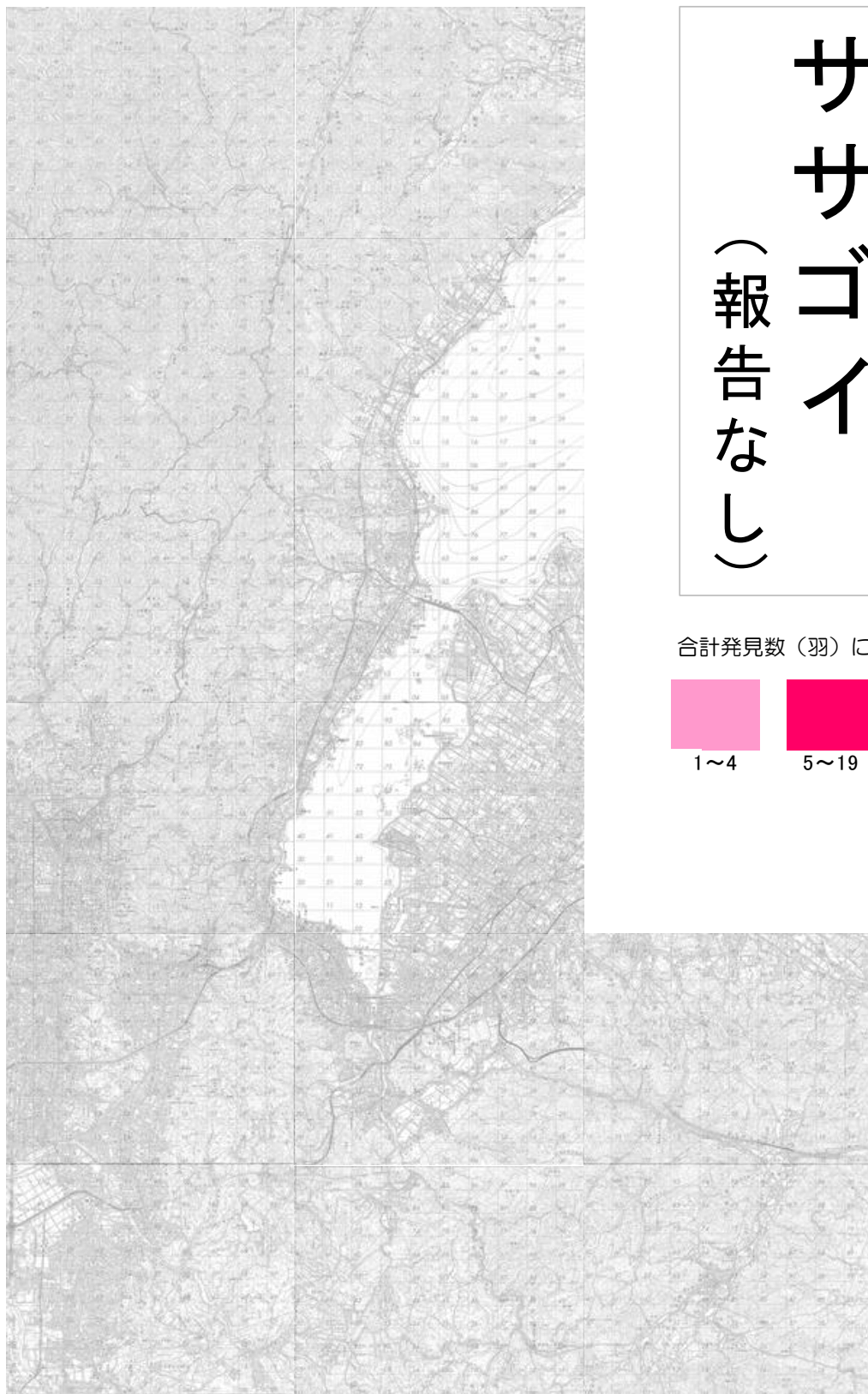


■夜行性が強く、日中は木の中などでじっとしていることが多いです。

■県内で最も減少傾向が強く、今回の調査でもその傾向が明らかとなりました。



■アマサギは、県内で減少傾向にあります。



ササゴイ (報告なし)

合計発見数（羽）による色分け



1~4



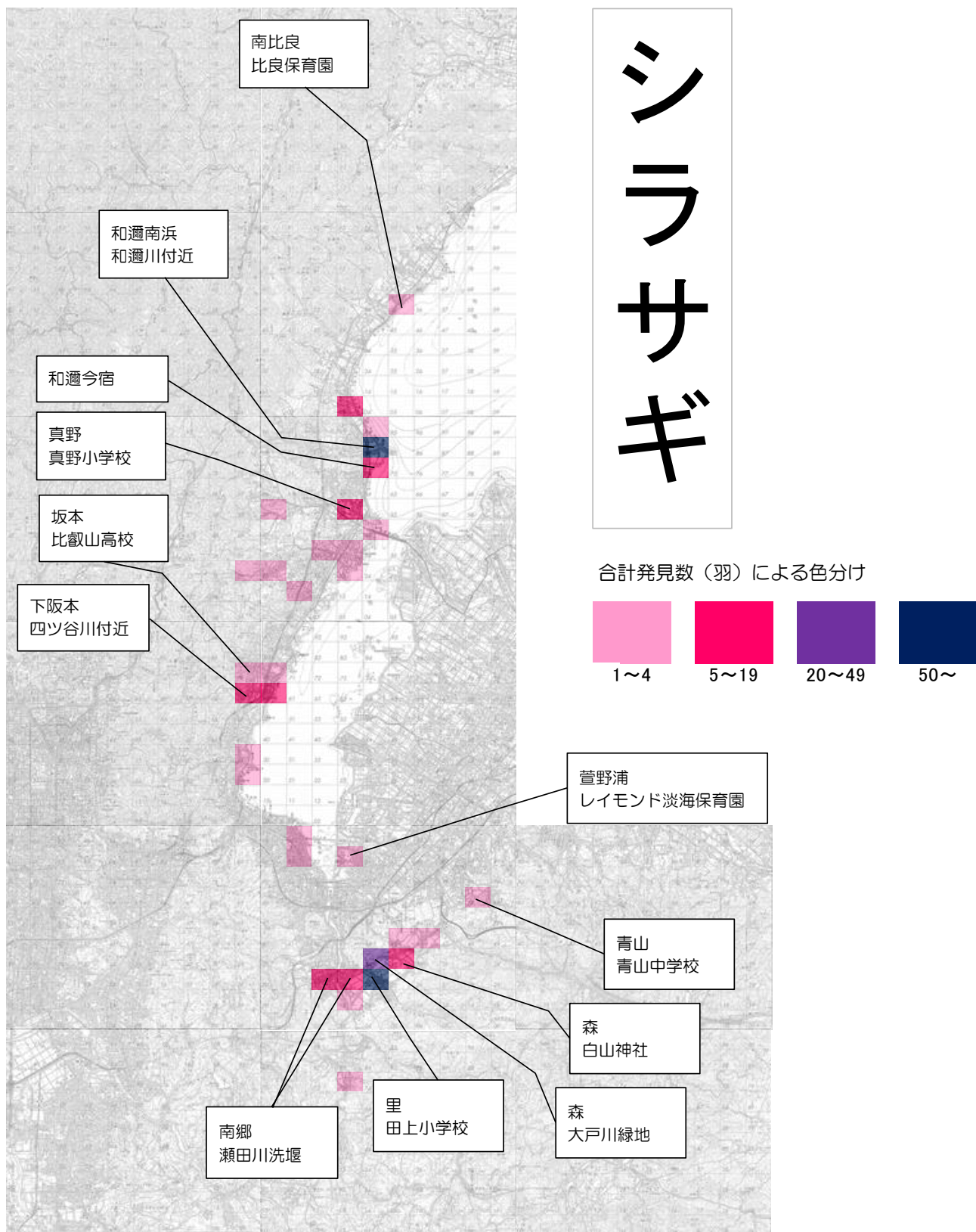
5~19



20~49



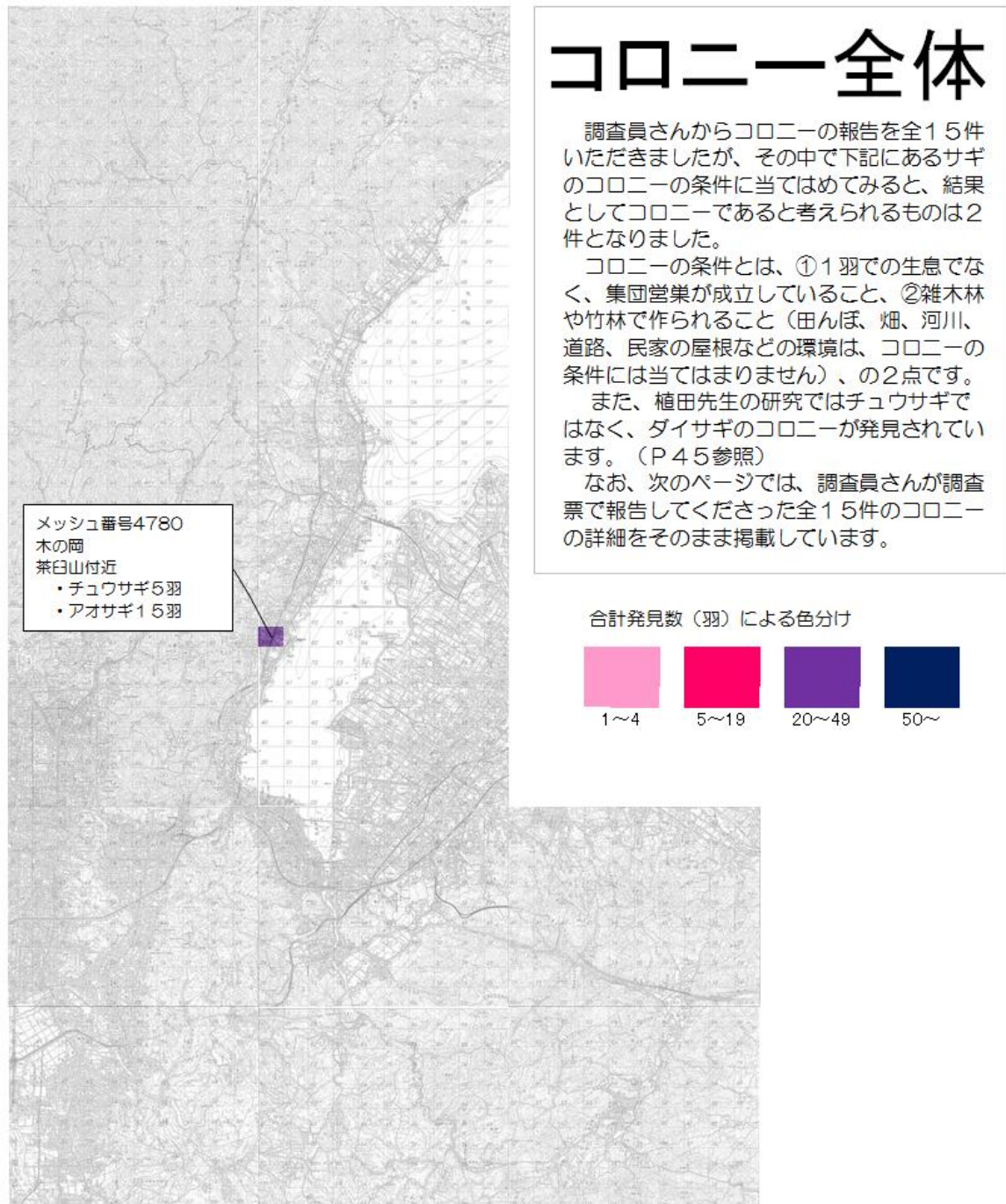
50~



※発見したサギの種類が不明な場合、「シラサギ」と記載いただいています。
 ■シラサギ類は、市街地である浜大津を境に南北に分かれて生息しています。

Fig3. 発見数別メッシュ分布図

コロニー調査票より集計



■木の岡茶臼山付近で、チュウサギと、アオサギのコロニーが発見されました。

■植田先生の研究では、チュウサギではなくダイサギが確認されています。（P56参照）

調査員の皆様から御報告いただいた、全 15 件のコロニー調査票の詳細を掲載します。

Table 2. コロニー調査票詳細

コロニー調査票より集計

月/日	メッシュ 番号	住所や 近くの目印	学区	生息環境	標高 (m)	サギの 種類	発見数 (羽)
6/1	5750	伊香立向在地町	伊香立	その他(田、畑)	165	シラサギ	2
6/4	5750	伊香立向在地町	伊香立	その他(田んぼ、水田)	165	シラサギ	2
6/4	5750	伊香立向在地町	伊香立	その他(田んぼ、水田)	165	シラサギ	2
6/15	5750	伊香立向在地町	伊香立	その他(田、畑)	165	シラサギ	4
6/17	5750	伊香立向在地町	伊香立	その他(田、畑)	165	シラサギ	3
6/2	4791	苗鹿 浄化センター北側	雄琴	その他	90	チュウサギ	1
6/2	4780	木の岡 (茶臼山)	坂本	雑木林(群で巣をつく って生息)	95	チュウサギ	5
7/1	4780	木の岡 茶臼山古墳	坂本	雑木林(古墳)	95	アオサギ	15
7/9	4780	比叡辻 2-15 比叡辻 2 丁目西交 差点	坂本	その他(川)	95	チュウサギ	1
7/22	4780	坂本 7-34	坂本	その他(川)	95	アオサギ	1
6/12	4669	坂本一丁目 京阪穴太駅から湖 側への水田	唐崎	その他(田)	125	アオサギ	1
6/15	4658	滋賀里四丁目	唐崎	その他(田んぼ、水田)	105	チュウサギ	2
6/10	3783	田んぼ	瀬田北	その他(道路)	90	アオサギ	2
6/20	3784	田んぼ	瀬田北	竹林	90	チュウサギ	1
7/28	3763	イオンモール草津	瀬田南	その他(道路)	110	チュウサギ	1

※多くの情報をいただきましたが、赤字で示した 2 件の報告がコロニーであると考えられます。

※コロニーの条件とは、以下の 2 点になります。

- ① 1 羽での生息でなく、集団営巣が成立していること。
- ② 雑木林や竹林で作られること(田んぼ、畑、河川、道路、民家の屋根などの環境は、コロニーの条件には当てはまりません)。

4 報告日ごとの発見数・報告数

調査期間内の日付ごとで発見数・報告数を集計しました。

なお、いただいた報告のうち、「日付の記載がなかったもの」（発見数 24 羽、報告数 7 件）については、本集計には計上されておりませんので、御了承ください。

Table3. 報告日ごとの発見数・報告数

サギ調査票より集計

6 月			7 月		
日付	発見数 (羽)	報告数 (件)	日付	発見数 (羽)	報告数 (件)
6/1	20	16	7/1	52	16
6/2	27	15	7/2	28	10
6/3	23	12	7/3	39	17
6/4	25	17	7/4	30	9
6/5	13	10	7/5	4	4
6/6	4	4	7/6	5	4
6/7	10	10	7/7	5	3
6/8	31	13	7/8	49	10
6/9	26	20	7/9	36	14
6/10	18	11	7/10	52	12
6/11	17	9	7/11	34	8
6/12	9	7	7/12	7	6
6/13	17	13	7/13	42	23
6/14	26	17	7/14	88	17
6/15	12	8	7/15	39	12
6/16	18	8	7/16	45	12
6/17	17	11	7/17	30	10
6/18	12	6	7/18	10	7
6/19	29	13	7/19	31	9
6/20	8	5	7/20	25	7
6/21	32	12	7/21	98	15
6/22	25	15	7/22	29	9
6/23	41	11	7/23	21	7
6/24	66	24	7/24	21	4
6/25	36	7	7/25	23	8
6/26	24	16	7/26	25	8
6/27	42	7	7/27	8	5
6/28	21	8	7/28	42	14
6/29	43	9	7/29	28	9
6/30	37	14	7/30	125	28
			7/31	41	14

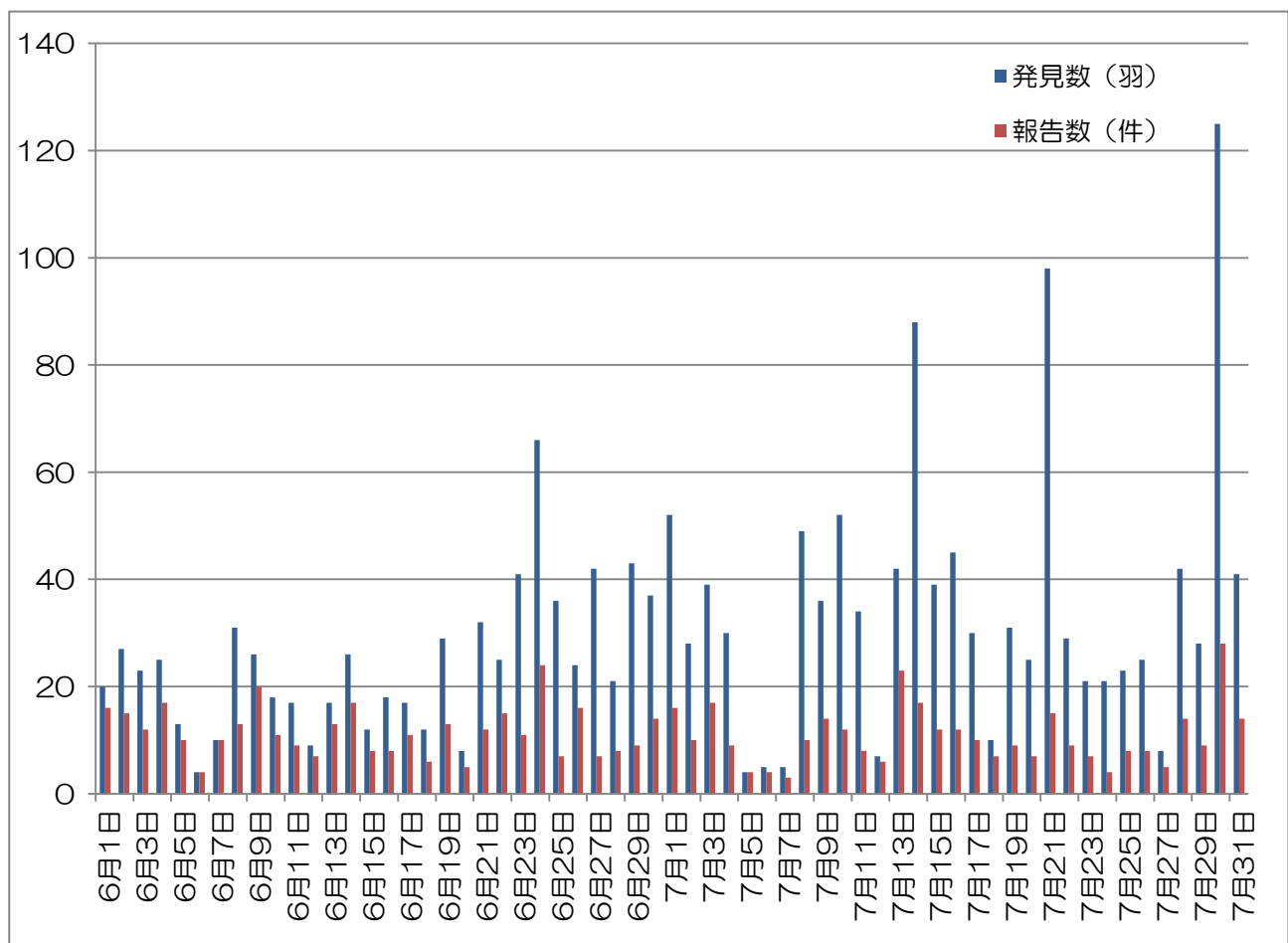


Table4. 月ごとの発見数と報告数（端数繰上げ）

	発見数（日ごとの平均）	報告数（日ごとの平均）
6月	7 2 9羽（2 5羽/日）	3 4 8件（1 2件/日）
7月	1 1 1 2羽（3 6羽/日）	3 3 1件（1 1件/日）

■上記のグラフ及び表を見て、6月と7月の数値を比較してみると、7月の報告数の方が6月より17件少ないにもかかわらず、発見数は6月より7月の方が383羽多いことがわかります。報告1件当たりの発見数（発見数÷報告数（端数繰上げ））は、6月は約2件、7月は約4件であり、7月の方が6月よりもサギを見つけやすいと考えることができます。

■全体の発見数では多い順に、7月30日（125羽）・7月21日（98羽）・7月14日（88羽）・6月24日（66羽）・7月1日と7月10日が（52羽）でした。

5 サギの学区別発見数・報告数

サギの報告を、以下に学区別で示しました。

Table5. サギの学区別発見数・報告数

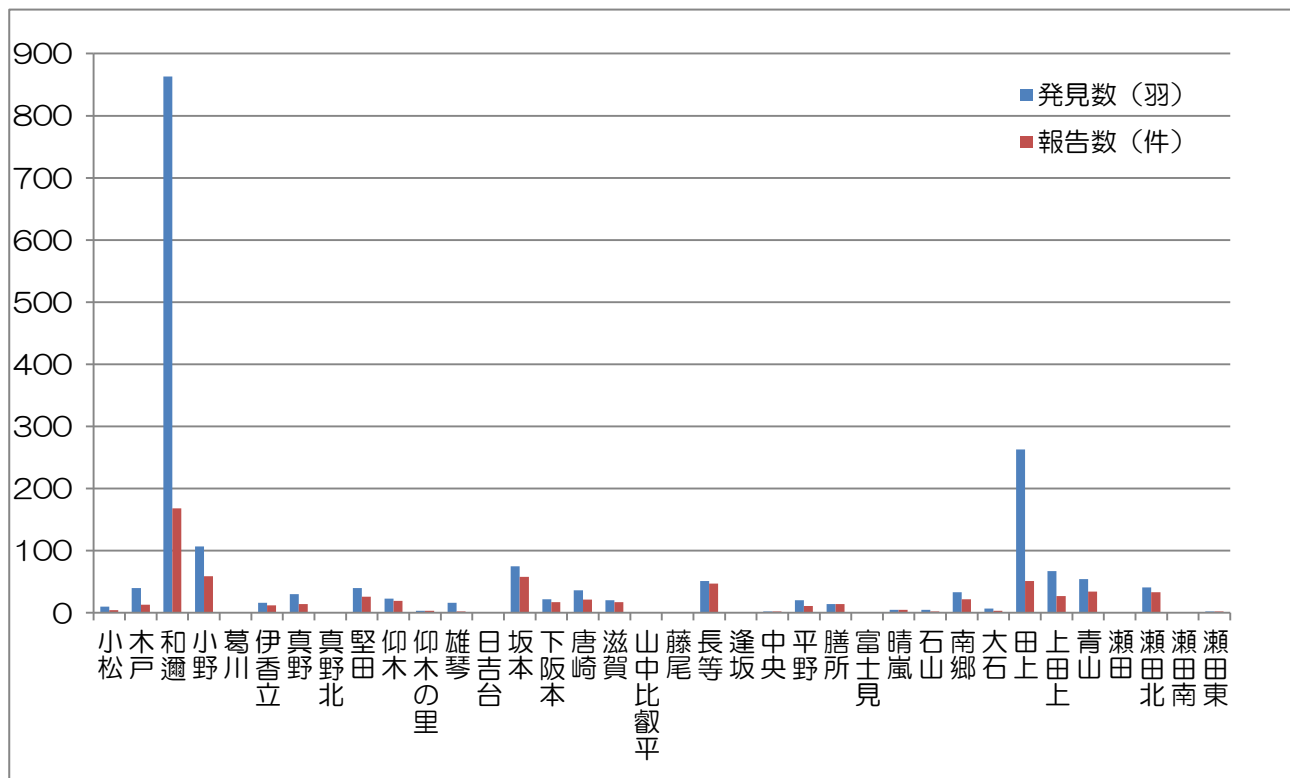
サギ調査票より集計

学区	発見数 (羽)	報告数 (件)	サギの種類
小松	10	4	ダイサギ、チュウサギ、コサギ
木戸	40	13	ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、アマサギ、シラサギ
和邇	863	168	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
小野	107	59	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、アマサギ、シラサギ
葛川	0	0	報告なし
伊香立	16	12	ダイサギ、アオサギ、シラサギ
真野	30	14	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
真野北	0	0	報告なし
堅田	40	26	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
仰木	23	19	ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、シラサギ
仰木の里	3	3	アオサギ、シラサギ
雄琴	16	2	チュウサギ、コサギ
日吉台	0	0	報告なし
坂本	75	58	チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
下阪本	22	17	コサギ、アオサギ、シラサギ
唐崎	36	21	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
滋賀	20	17	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
山中比叡平	0	0	報告なし
藤尾	0	0	報告なし
長等	51	47	コサギ、アオサギ、シラサギ
逢坂	0	0	報告なし
中央	2	2	アオサギ
平野	20	11	ダイサギ、コサギ、アオサギ

膳所	14	14	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
富士見	0	0	報告なし
晴嵐	5	5	ダイサギ、アオサギ
石山	5	2	チュウサギ、アオサギ
南郷	33	22	ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、シラサギ
大石	7	3	ダイサギ、アオサギ、シラサギ
田上	263	51	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
上田上	67	27	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、アマサギ、シラサギ
青山	54	34	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
瀬田	0	0	報告なし
瀬田北	41	33	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、シラサギ
瀬田南	0	0	報告なし
瀬田東	2	2	チュウサギ、アオサギ

■和邇学区、真野学区には、それぞれ和邇川、真野川があり、それらは大津市内で唯一、北湖に流れ込む河川です。北湖は南湖よりもアユの生息数が多く、和邇川、真野川にはアユが遡上することもあり、サギが生息するための環境が整っています。

■田上学区は水田環境が整っており、サギの生息しやすい地域であるといえます。



■発見数の多い順では、上位から和邇（８６３羽）、田上（２６３羽）、小野（１０７羽）となりました。

■発見数、報告数とも、大津市の北部と南部で多く、中部では少ない傾向が見られます。その要因として、北部と南部では、サギのえさとなる生き物が生息できる川や田んぼが多く、反対に中部では、住宅地が多く、えさが少ないことが挙げられます。

■学区によっては発見数０羽（葛川、真野北、日吉台、山中比叡平、藤尾、逢坂、富士見、瀬田、瀬田南）となっている場所もありますが、調査員の方がいらっしゃらなかった等の理由により、その学区には「サギが全くいない」ことを示すものではありません。しかしながら、サギの生息場所の傾向として、山間部よりもえさの多い川の中流から下流地域や田んぼのある平野部に多く生息していることから、山間部の多い前述の学区では普段からあまり見られないとも考えられます。

■発見数が突出している和邇学区では、報告数１６８件（８６３羽）のうち約半数である８９件（４１１羽）が、和邇川からの報告でした。その他の河川における報告場所としては、鎌田川から４件（５羽）と、喜撰川から１件（２羽）の報告がありました。調査員さんからいただいたコメントにあるように和邇川には多くのサギが生息しているようです。

また、報告件数の多い調査員さんがいらっしゃったことも、和邇学区でのサギの発見数、報告数が多い一因であると考えられます。調査員の皆様の活動により結果が大きく変化することも、調査員皆で作り上げる「身近な環境市民調査」の大きな特徴です。

6 サギの発見数・報告数

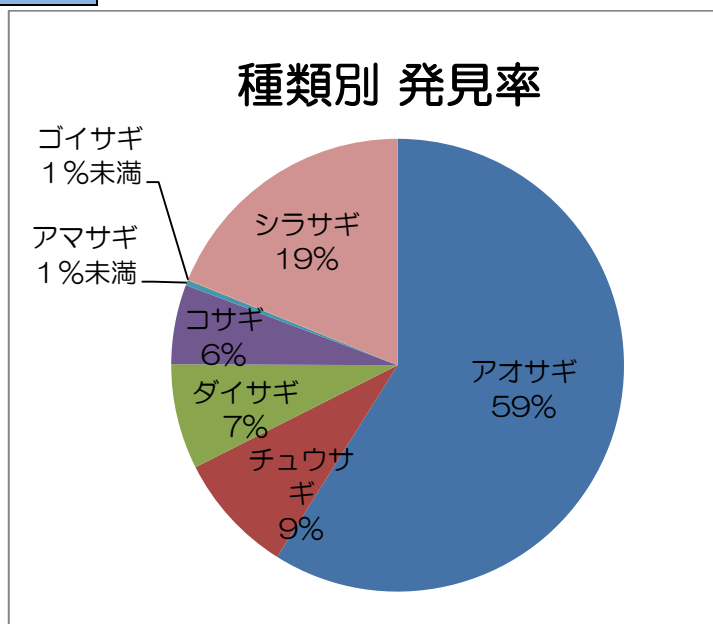
サギの報告を、発見数と報告数でまとめました。

皆様の見つけたサギはいかがでしょうか。

Table6. サギの発見数・報告数

サギ調査票より集計

種類	発見数 (羽)	報告数 (件)
アオサギ	1 0 9 9	3 4 8
チュウサギ	1 6 1	9 4
ダイサギ	1 4 0	6 3
コサギ	1 0 6	7 1
アマサギ	7	3
ゴイサギ	1	1
ササゴイ	0	0
シラサギ (見つけたサギの種類 が不明な場合)	3 5 1	1 0 6
計	1 8 6 5	6 8 6



■発見されたサギを多い順に見ていくと、上位からアオサギ、チュウサギ、ダイサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギとなりました（シラサギを除く）。特にアオサギの発見数は、全体の半数以上を占めました。

■アマサギ、ゴイサギ、ササゴイの3種類の発見数、報告数は少ないものとなりました。ゴイサギとササゴイは、サギの特徴であるS字に曲がった長い首が一見して無いために、遠目から見るとサギと認識しづらかったのではないかと考えられます。

■シラサギ類は、ダイサギ、チュウサギ、コサギがほぼ同じ割合で発見されました。ダイサギとチュウサギの見分け方が難しかったという感想がいくつかありました。

※見分け方については、15ページに記載のくちばしの長さや、口角の位置の他、写真から見てとれるように、ダイサギはくちばしから顔のラインが直線的、チュウサギはくちばしから顔のラインが丸みを帯びている、という特徴もありますので、今後、観察の際には参考にしてみてください。

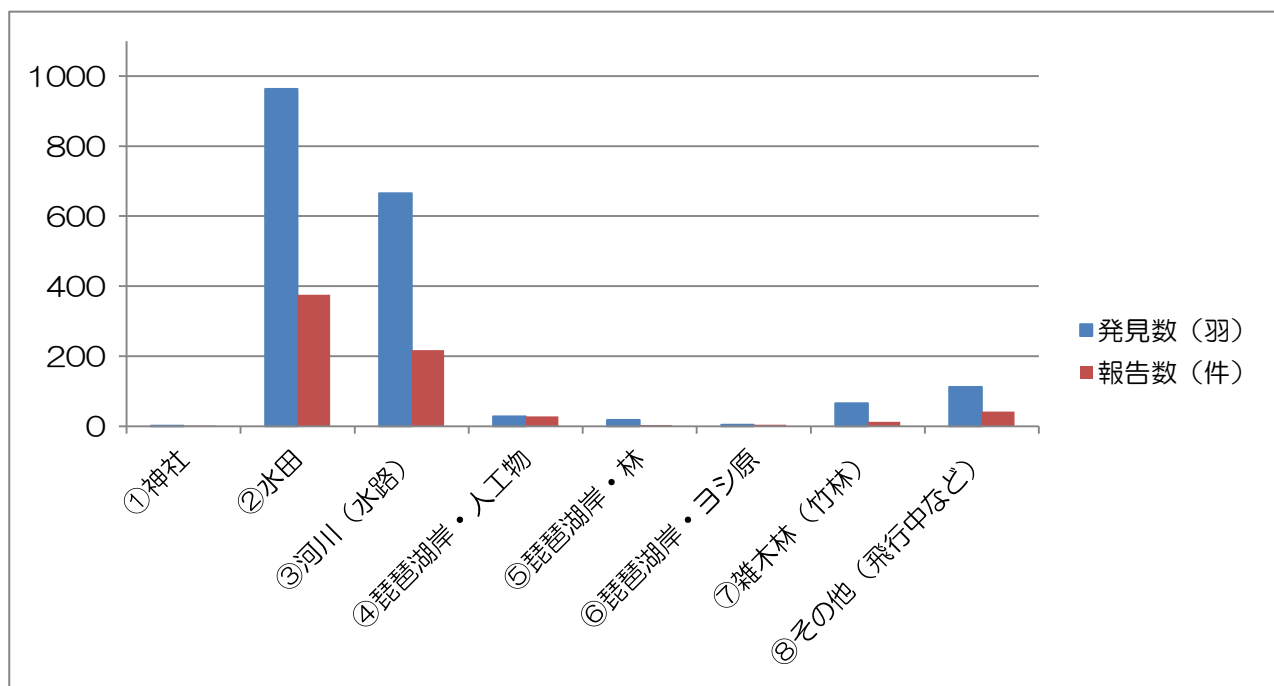
7 生息環境別発見数・報告数

どのような種類のサギが、どのような場所に生息しているかをまとめました。なお、いただいた報告のうち、「生息環境の記載がなかったもの」（発見数 9 羽、報告数 4 件）については、本集計には計上されておりませんので、御了承ください。

Table 7-1. 生息環境別発見数・報告数

サギ調査票より集計

生息環境	発見数(羽)	報告数(件)	種類	名前
① 神社	1	1	1	アオサギ
② 水田	963	375	6	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ アマサギ シラサギ
③ 河川(水路)	665	217	7	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ ゴイサギ アマサギ シラサギ
④ 琵琶湖岸・人工物	28	28	5	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ
⑤ 琵琶湖岸・林	18	3	2	ダイサギ コサギ
⑥ 琵琶湖岸・ヨシ原	4	4	2	アオサギ シラサギ
⑦ 雑木林(竹林)	65	12	4	ダイサギ チュウサギ アオサギ シラサギ
⑧ その他(飛行中など)	112	42	5	ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ シラサギ



■生息環境でサギの発見数が最も多かったのは、「②水田」でした。

反対に、発見数が最も少なかったのは、「①神社」でした。

■発見数の最も多い「②水田」は963羽、2番目に多い「③河川 (水路)」は665羽で、この2つの環境を合わせると1,628羽であり、サギの総発見数1,865羽のうちの約87.3%を占める結果となりました。

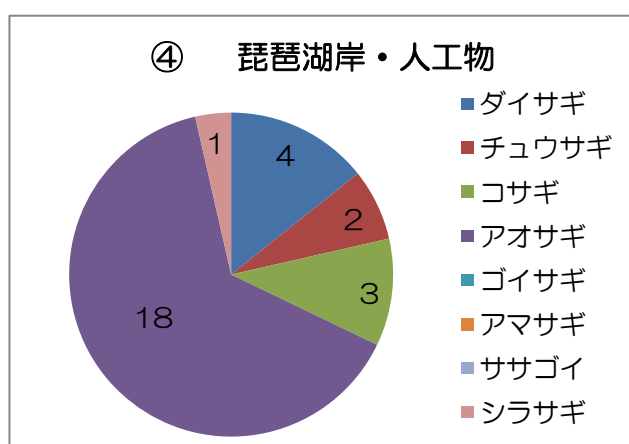
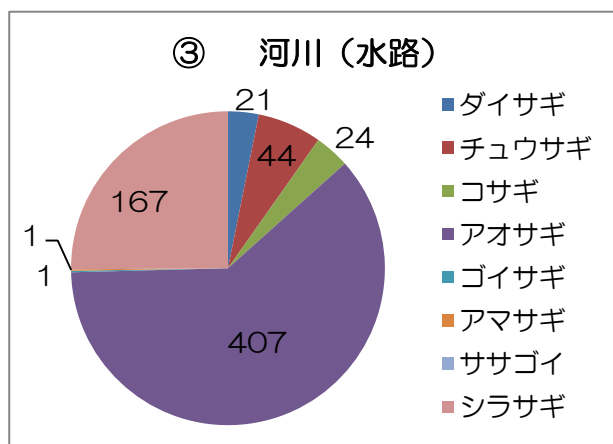
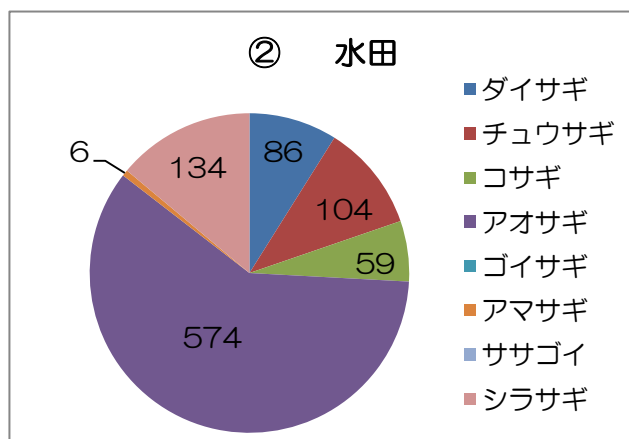
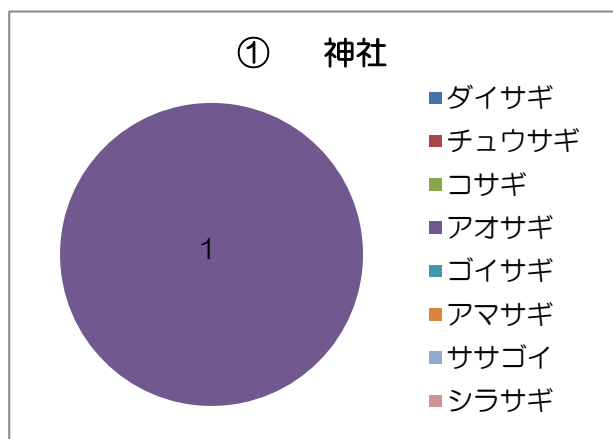
■発見数、報告数ともに少なかった、「⑤琵琶湖岸・林」と、「⑥琵琶湖岸・ヨシ原」は、もしかすると調査員の皆様が日常生活の中であまり行く機会がないために、数が少なかったのではないかと考えられます。

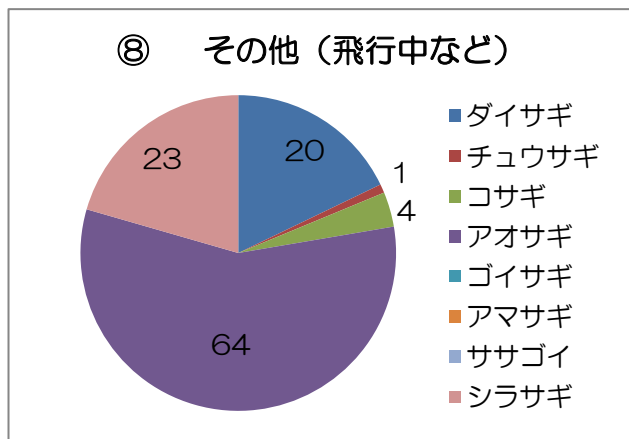
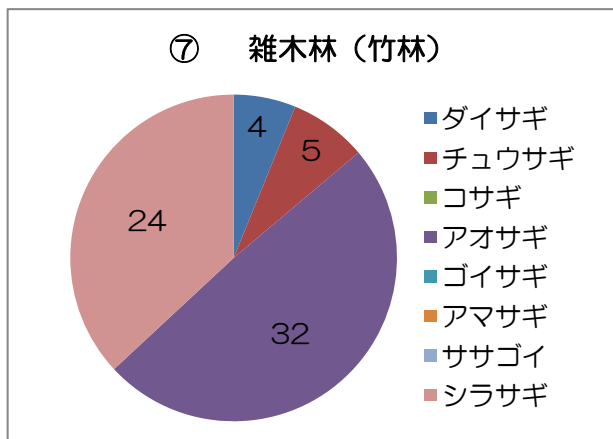
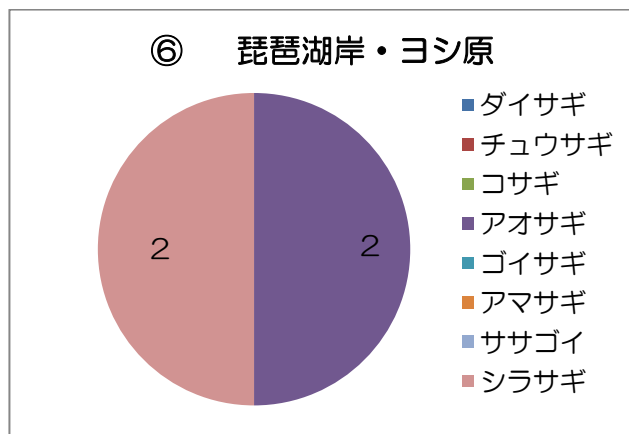
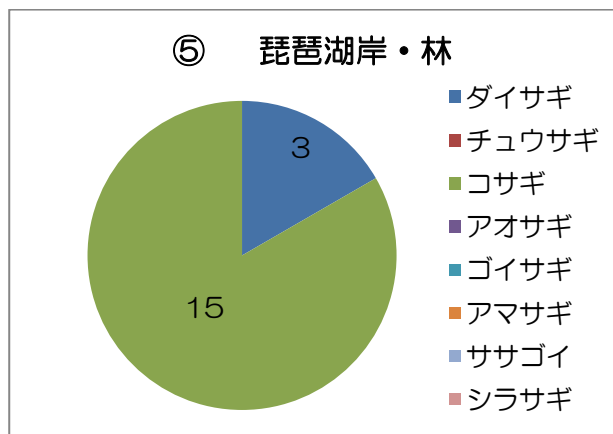
■「⑥琵琶湖岸・ヨシ原」については、ヨシ自体が生育している場所が限られているために、そこをすみかとするサギの発見数も少ないのではないかと考察することができます。

Table 7-2. 生息環境別発見数

サギ調査票より集計

種 類 生息環境	アオサギ	チュウサギ	ダイサギ	コサギ	アマサギ	ゴイサギ	ササゴイ	シラサギ	計
① 神社	1	0	0	0	0	0	0	0	1
② 水田	574	104	86	59	6	0	0	134	963
③ 河川（水路）	407	44	21	24	1	1	0	167	665
④ 琵琶湖岸・人工物	18	2	4	3	0	0	0	1	28
⑤ 琵琶湖岸・林	0	0	3	15	0	0	0	0	18
⑥ 琵琶湖岸・ヨシ原	2	0	0	0	0	0	0	2	4
⑦ 雑木林（竹林）	32	5	4	0	0	0	0	24	65
⑧ その他（飛行中など）	64	1	20	4	0	0	0	23	112
計	1098	156	138	105	7	1	0	351	1856





■「②水田」、「③河川（水路）」、「④琵琶湖岸・人工物」、「⑦雑木林（竹林）」、「⑧その他（飛行中など）」では、4～7種類のサギを発見したという報告がありましたが、「①神社」、「⑤琵琶湖岸・林」、「⑥琵琶湖岸・ヨシ原」では、1、2種類の発見報告のみとなりました。

■今回1羽しか発見することのできなかったゴイサギは、「③河川（水路）」に生息していました。

■ゴイサギと同様に、7羽と発見数の少なかったアマサギは、「②水田」と「③河川（水路）」に生息していました。

大津市「サギ」調査を振り返って

日本野鳥の会滋賀 保護研究部 植田 潤

鳥類の観察には、双眼鏡が必要であったり、見分けるための慣れが必要であったりとなかなかすぐには始められないものがあります。しかし、鳥類の中でもサギ類は大型で、目立つので、比較的観察しやすい種類です。サギ類の観察を通して、身近な環境に目を向けるきっかけとなっただけなら幸いです。

調査には65名もの方から700件を超える報告があったと聞きます。このようなたくさんの方が、サギ類を調査することを通して大津の自然環境に目を向けていただけたことは大きな意義があったと思われます。

今回の調査では大津市内におけるサギ類の分布が明らかになりました。大津市の中で、特にサギ類が集中して見られる場所は、真野から比良、坂本周辺、田上盆地の3カ所であるようです。これらの地域は、水田が広がっており、河川が流れているという共通した環境があります。また周辺には休憩時に止まって休むことができる山林や河畔林があることも共通しています。

コロニーについては茶臼山（大津市木の岡町）でアオサギとチュウサギが確認されています。筆者が確認したところ、コロニーの構成種はアオサギとダイサギでした。ダイサギとチュウサギについては識別が難しく、また幼鳥については専門家でも注意を要しますので、この結果は仕方ないことだと思われます。この部分については訂正させていただきます。今回コロニーの存続が確認され、調査記録として残ったことは、大きな成果であるといえます。

調査員の皆さまからの感想の中に、「水路にいる生物を観察し、こんなものを食べているのか？」「川が増水している。」「鮎らしき魚を捕食していた。」などサギ類の行動をつぶさに観察されています。水辺の生態系の頂点近くに位置するサギ類を調査・観察することで、我々ヒトに近い目線で、身近な自然環境について目を向けることができたのではないかと感じました。

近年、サギ類の減少が全国的に起こっており、問題となっています。減少の原因として開発による水辺環境の改変、繁殖コロニー場所の減少があります。

サギ類の多くは、浅い水域や、水田などの湿地で生活し、水辺の動物をエサとしており、水辺の自然環境の豊かさを表す指標にもなると考えられます。サギ類の減少は水辺の自然環境の悪化を表しているといっても過言ではありません。今回の調査を基に、今後も定期的なモニタリングを行うことで、大津市の水辺の生態系の変遷を見ていくことが必要であると思います。

市民調査員の皆様からの感想など

多くの感想やお写真をいただきましたので一部を御紹介させていただきます。

5月 青田植えの時期田んぼの所にサギが立ち止まっていました。
幼鳥か。水田のエサを求めてゆったりとした足取りで移動。何度か飛んで場所を変えた。
幼鳥か。真野川の鮎などの魚を狙っている感じ。雨降りも影響か。当時釣り客多し。
水田でエサを取っている最中。何をとっているかまでは分からず。
田んぼが青々として来た頃、サギが立ち止まっていました。
田んぼの中のエサをとっている様子。その後後方へ飛び去った。
同じ田んぼでダイサギとアオサギが同じような行動。アオサギはかなり若い幼鳥に見えた。
大きくて白いので目立つ。
2羽は川で立っていた。残り2羽は水田でエサを取っていた。
山の方から瀬田川に向かって飛んでいた。
湖岸にいるガチョウのエサを取りに来た様子
成鳥と幼鳥のような。
釣魚を待っている様子
昨日と同じように釣魚を待っている様子
一羽を追い払っているような
川にじっと魚が寄ってくるのを待っている。暑くないのかしら？
ここの田んぼにはエサがあるらしく常に数羽いる。
梅雨の中、たくさん、田んぼで餌をみつけている様子
34℃（気温が32℃以上になると全然見かけなかったためにめずらしく見かけた）
屋根の上で毛づくろいをしていた。
石垣から魚を探していた。
魚を探していた（体は小型）
漁船の上で毛づくろいをしていた。
文化館北東側で魚を探していた（動かずに湖面を見ていた）
湖岸の石垣で魚を探していた。（忙しく歩いていた）
湖岸で餌を探していた。
河口附近で小魚を探していた。人が行くと逃げた。
魚釣りの人を狙っていた。
魚を探していた。
毛づくろいをしていた。
毛づくろいをしていた（体は小さ目）
シラサギ（コサギかチュウサギか距離があったのでよく分かりませんでした）水田と休田の間を行ったり来たりしながら、その内に何かをつかまえて食べているようです。
シラサギ（遠いので種がよく分かりませんでした。）
アオサギが水田から飛び出したので、見とれていました（美しくて）。

この水田でアオサギを見たのは初めてです。すぐそばの水田が宅地開発中で、残っている水田に3羽おり嬉しく見ましたが、エサ場が少なくなって3羽も来たのかなと思うと複雑な気持ちです。この水田にはいつもカルガモが2～4羽います。
アオサギ3羽は同じ水田でエサを食べていて、後の1羽はまた別の水田でエサを食べています。
16日と同じ場所で3羽アオサギを見つけました。こんなにアオサギを見ることがないので、驚いています。
京阪の石山坂本線に乗っていて見つけました。水田でエサを探している様子です。
この2～3日サギを見ないと思っていたら、今日はシラサギばかりまとまって水田でエサを食べています。シラサギばかりというのも初めて見ました。その内1羽が飛び立ち美しい姿です。
シロサギ。しばらくサギの姿が見えなかったのですが、夕方の雷雨の後、2羽が水田にいるところに1羽が飛んで来ました。（滋賀里方面から）
サギ調査は、毎日朝、夕の犬の散歩で調べたものです。2か月間楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。
シロサギ。先週の3日間は大雨で、その間は1羽も見ることができませんでしたので、久しぶりに（1羽だけですが）嬉しくなりました。雨の間、サギ達はどのようにしているのでしょうか？
シロサギ。この辺は、水田が広くて、サギがたくさん居そうですが、今回初めて見つけました。近くの人のお話では、カルガモはよく見るよとのことでした。
穴太1丁目で見かけたシロサギは、大きなカエルを食べようとしているところで、飲み込むまでずいぶん時間がかかって食べていました。
シラサギ。この場所で久しぶりにシロサギを見ました。その後、琵琶湖岸に行ったところカルガモを8羽見つけました。前日の26日に湖の四ツ谷川の河口のところで21羽のカルガモが、まとまって流れ着いた藻の中に首を突っ込んでいる姿を見えました。7/13日以降、暑い日が続いたせいか、まったくと言っていい程サギの姿が見えませんでした。
交差点で待っている時、イオンの方向から西南に向かって飛行していた。（高度10m（立））首をS字にして飛んでいるのがはっきり分かった。（カメラなし残念！！）説明会のお話の通り重たい感じで飛んでいますね。6/19能登川から彦根方面に電車、車で移動しましたが、ダイサギ（？）と思われる白いサギが田んぼにとまっているのが20羽程度観察できました。2ヶ月間いつも移動している範囲では（雄琴―大津京一浜大津）白いサギに出会いませんでした。（田畑に止まるのでしょうか（シロサギは））
常に止まっている訳ではない。夕刻に見かけることはない。6月はよく見かけたが7月は一度だけ。6/2512:30の時は説明会でお聞きした通り脇を広げ西に向いていた（暑い日！）カメラ持参せず残念。1週間に2回～3回はこの地点を通りますが2か月間同じ場所（屋根）にアオサギがとまっていたのはAの複数回です。かなり以前から、この場所に大きな鳥がいることを知っていたのですが、今回アオサギであることを始めて認識しました。
湖岸の杭にとまっていた。
柳川の流れの急なところに立っていた。大雨で増水中
柳川の流れが一番急なところに来た。大雨で増水。白い方は少し小さい。その後30分後にアオサギだけ同じところへ戻ってくる。流れの速い川沿いをウロウロしながら30分おきくらいに戻ってきた。
川沿いに来た
川の上を飛んでいった
家のアンテナにとまる
全く動せず、10分以上静止していた。
水田で直立静止を見つけ近くへ寄ると即飛び立ちました。

水田を頻繁についばみエサを食している様子。近づくと飛び立つ。
水田を頻繁についばむ。エサを探している様子。上記同様すぐに飛び立つ。
水中の魚を狙って水面を注視していた。湖岸水中を 5m 範囲で移動していた。
水田の中でえさを探しているもすぐに飛び立った。
深みのある水路にてエサを探している様子。
湖水の中に立っているのを近江大橋上で見つけて湖畔に到着したときには飛び立ってしまい写真撮れず。立ち姿からダイサギだと思う。
水田の中魚を探し求めて歩き回っている。
水田横の雑草地に向いてじっとしている。
水田の中を一生懸命に水をつつきながらえさを探している様子。歩きながら。
湖岸船舶用さんばし上。湖面を見ている。
水田の中、羽つくろいをしている 3 羽共
チュウサギは水田の中を闊歩していた（動き回っている）。アオサギは直立不動
チュウサギは多くの中学生の観察に驚いて飛び立った！！瀬田北中生 16 名と共同観察
チュウサギが飛び立った後にアオサギが飛来するも多くの観察者に驚いて飛行を続けた。瀬田北中生 16 名と共同観察
アオサギが水田に直立動かす
アオサギ水田に直立不動
ダイサギ琵琶湖岸の水辺にて。すぐに飛び立つ。
水中のえさを探している様子。くちばしで水の中をつついていいる。
河口付近に 4 羽そこから約 1500m の間に 1～2 羽バラバラと計 10 羽
水田は中干し状態で水はほとんどなし。
大戸川の中でじっと立っていた。小魚でも狙っているのかな？
約 50m の範囲に 8 羽が居た。気温 25℃位曇っていてあと 2～3 時間位で雨が降りそう。
水中でエサを食べていた。
水田の中の生物を食べていた。県道から 10m 位の近くにいた。
なかなか見ることができませんでした。申し訳ありません。
アオサギ（幼鳥）。水面を眺めながらも、近くの大津絵の橋の上から釣りをしている人を気にしている様でした。柵に止まって増水した水面を眺めて魚を探している様でした。
アオサギ（幼鳥）。台風通過後のにごった湖面をじっと眺めて魚を探っている様でした。
少し風が出て暑さがおさまった頃、カーと鳴く声に空を見上げると、アオサギが 6 羽隊列を作って南東へ飛んでゆくところだった。こんな感じの隊列。（縦に 3 羽×2 列の絵）
シラサギ（中か大サギ）。田んぼの横を流れる用水の中にシラサギ 1 羽じっと立つ。大きめなので大か中サギと思う。台風が過ぎた翌日で、晴れたり曇ったり時々強い雨が降ったりの日候。
前述の同じ用水のへりにアオサギが 1 羽立っている。全身グレーっぽい。
シラサギ。前述の同じ場所でシラサギ 2 羽飛行。
コープ堅田店上空を、アオサギが 1 羽、南から北へ飛行
快晴。とても暑い中水田にアオサギ 2 羽立っている。周りにトビ 1 羽、キジ 10 羽、稲の生えていない田んぼの地べたにたむろしている。トビがいても気にならない様子。
うす暗くなりかけた頃、カーという鳴き声がして空を見上げると、我が家の上空をアオサギが 2 羽北西へ向かい飛んでゆくところだった。2、3 度鳴き交わす声が良く聞こえる。鳴きながら飛ぶのか？
快晴の中、アオサギ 1 羽水田に立つ。ここにはよくアオサギがやってくる。集団では来ないようだ。

シラサギ（チュウサギかダイサギ）。大雨の中、水田の中に立つ。県道から車窓より見えたので、大か中か見分けられない。
シラサギ（コサギかアマサギ）。上記と同じ場所で小さめのサギ2羽。真白なのでコサギかと思う。
シラサギ（たぶんコサギ）。大雨の中、わに川の中を歩いている。水辺に1羽でいるのはコサギではないかと思う。
気温27度、それほど高くない上空を1羽、北西に向かい飛んでゆく。
シラサギ（コサギかアマサギ）。強風の中、北西に向かい飛行。
気温27度、水田に頭を突っ込み捕食中。頭が黒い。
道路から少し小高いところにある水田に1羽立っている。頭が黒く、2本の白い飾り羽が下がっている。ゆっくりと歩いているアオサギはシラサギほど美しい羽ではないけれど、頭の羽は精一杯のおしゃれか。降り始めたばかりの小雨の中。
コサギ1羽南から北へ飛んでゆく。ゆったり飛んでいるように見える。急いで飛ぶこともあるのだろうか？いつも優雅に飛びイメージがあるけれど。湿度温度高くない。
シラサギ（たぶんコサギ）。コサギらしき1羽が和邇川を東から西へ飛んでいく。首を縮め、足をぴんとそろえてお行儀よく美しい飛び姿と思う。羽の動きがゆっくりしていて優雅に見える。
シラサギ（たぶんコサギと思う）。大きなサギ3羽と同じ水田に小さいサギが1羽だけ。全身が白く1羽だけなので、おそらくコサギと思われる。水田に立ちじっとしている。
シラサギ（チュウサギかダイサギ、大きいサギ）。水田の中で大き目のサギが3羽、距離をとって立っていた。エサを取っているのかなと思う。緑の水田に白い姿が映えてきれいだし目立つ。
シラサギのいる水田のすぐ西どりの水田に2羽じっと立つ。全身グレーで、黒く目立つところがないのでまだ若いアオサギかと思う。
サギの調査、楽しくやらせていただきました。もう少し、広い範囲に足を伸ばして調査できればよかったのですが、猛暑の中なかなか出歩くことができず、自宅周辺の調査に終始いたしましたことが心残りです。見られたのはコサギ、チュウサギ、ダイサギなどのシラサギとアオサギで、ゴイサギやアマサギ見かけなかったのが残念ですし、コロニーも観察してみたかったです。
前から不思議に思うことがあります。今回も自宅上空を飛びアオサギを見かけましたが、アオサギは飛んでいくときに必ず鳴くのです。カー、と複数回（必ず複数回鳴きます）鳴くのが聞こえるのでああアオサギが飛んでいるな、とわかります。我が家の上空だけで鳴くわけではないでしょうから、よく鳴き交わしながら飛んでいるということでしょうが、何をしゃべっているのでしょうか。時々、鳴きながら複数羽が旋回していることもあります。まるでしゃべりながら行き先を決めているようです。
みどりの水田にサギがたたずむ姿は昔から日本各地で見られた心なごむものです。サギにとって住みよい環境でありますように願っています。つたない調査内容ですがお役に立てましたら嬉しく思います。
真野川の流れが落ちる場所にて魚を狙っている様子でした。
堅田の内湖に複数羽が羽を休めていた。他の場所からも飛んできたり、また飛んで行ったり。コロニーも近くにあるのかも。
アオサギ（幼鳥）。1羽は水田の中で直立不動。1羽は水田の中のエサをあさっていた。
水田の中でエサを食べている。
水田の中で立っていた。
川の中の中洲にじっと立っていた。
シラサギ。ツバメも5羽飛び回っていた。
7月11日、31日両日とも大戸川堤防の道路を車で走行中にサギを見つける事が出来た。

和邇川、いつもはアオサギの数が圧倒的に多いのに、今朝は型の小さいシラサギが多い。今宿の水田もいつもとは少し南（数10mくらい）に多くのシラサギが集まっていた。
シラサギは良く動き回り、忙しそうに食事している。水田横に群れているサギは、育った稲穂で頭がチラリと見える。作物の消毒はあまりしてほしくないなァー。本日が最終日となった。
稲穂が日に日に色が黄色味を帯び、消毒しておられる姿も見られ、早々に場所を移動。サギ達も嫌でしょうネ！台風が近づいているので雲が多く、気温の割に蒸し暑い。雨は降って欲しいけど風はいらん。
台風の通過した後で、型の小さそう（50cm位より小さい）なシラサギがよく動いて水面をつついている。
稲穂が出て葉の丈まで伸び、また緑色の稲田が黄色わずかに帯びてきた。水田のサギは少なくなった。
小さいシラサギはよく動き回ってエサを食べている。アオサギはじっとしている子が多い。
数日前まで多く見られた和邇今宿の水田でほとんどサギが見られなくなった。何故？稲穂が出始め消毒している水田も多い。
型の小さめのシラサギは動きが川の中でも早く、アオサギはじっくりかまえている感じ。
夜明けの頃、日の出前に多くのサギが和邇川上空に見られた。水田の中でも、稲穂の背が高い水田にはほとんど見られず、あぜや草丈の低い水田には多くの種類の鳥がいた。
朝日の出直前直後に多くのサギが和邇川の中に立っている。シラサギの小型のものはよく動き回る。
夜がようやく明けた頃、観察に出かけた。水田の数は少なく、和邇川で多くのサギが見られた。魚（エサ）を捕食している場面にはなかなかであえない！
和邇川に多くのサギ、カモがいた。水量もようやく落ち着いて浅瀬に砂路が見える所もある。
今朝は湿度が少し落ち着いて、さわやかな夏の朝を感じた。日中は36～37℃に上がる予報。
明るくなった早朝、和邇川の川中で多くのサギが居た。シラサギは活発に良く動く。上空にも多くのサギが飛び、エサを求め出かけたのかも。
和邇川では、いつもより多くの方が釣りをしている為か、サギの姿が少ない。アオサギの中にチャコールグレーが全体で、頭部、広げた羽の先、真っ黒がいた。モノトーンの比率がバラエティーに富んでいる。
上空で何羽も飛んでいるのを見かけた。寝ぐらからご出勤かな？
稲の背丈が70cm位になり、水田に入っているサギの頭部しか見えなくなった。
昨日、梅雨明け宣言。まだ湿度は高く蒸し暑い。
今日も暑い一日になりそう。鳥たちの目覚めは何時ごろなのでしょう。
和邇川側の電柱に、トンビがよく止まっている光景は何度も見ましたが、めずらしくアオサギが止まっていた。トンビ4羽。
和邇今宿でトンビ14羽、ハウスの骨組の上に居り、その為か近くの和邇川にいつもより多くのアオサギが居た。
アオサギの群、体型の大きいものは動きが少なく監視役なのか。羽を乾かしているのかな？体型の小さいものはよく動き、さかんにエサを探している。
蒸し暑い。和邇今宿の群れが少なかった。時間が遅かったからかな？
夜中の雨上がりで和邇川の水量が多い。川の上空にチュウサギが飛んでいた。今宿の水田にも数が少ない。
アオサギの多くがゆっくりと過ごしている様子。和邇川にいた小型のシラサギはよく動いて鮎らしき魚も捕食していた。
アマサギがいました！頭と背中が美しいオレンジ（甘色）できれい。しばらく食事していたのち、4羽で飛び立ちました。
だいたい同じような種類のサギが同じ場所に居るようだ。アオサギの群の近く畑地に雄の「キジ」1羽を見つけた。

アオサギの白黒グレーの配色がバラエティ豊かに感じる。和邇川浅瀬に居たアオサギが巧みに魚を見つけ捕食した瞬間を目撃。バタつく魚もくちばしにくわえ、徐々に口元にくわえなおしパクリと食べた。細い足の角度や体を縮ませたり斜めにのぞき込んだり多彩な動きにびっくり。
シラサギもくちばしが黄色い物や粉黒い物、全部が黒い物の個体差がある。勉強会に参加できず区別を今からでも教えていただきたい。興味深く楽しい。
雨後で気温19℃低い。夕方は初めての観察。今宿のアオサギの数にびっくり。型の大きいものは動きが少なく、小さいものはよく動いている。田の水路にアマガエルとザリガニがいた。こんなのをエサに食べてるのかな？
小野水田に隣接してヨシの茂みがあって、色々な鳥のさえずりが聞けます。鶴に似た「クォークォー」に鳴声も。これがサギの鳴く声かな？水田の中のシラサギは盛んにくちばしを水中に入れてはおこしをくり返して餌を食べている。灰色のアオサギは幼鳥なのかな？質問がわいてくる！
双眼鏡でよく見ると目視よりはっきりサギの数が確認でき、アオサギの頭から黒い飾り羽があるも。幼鳥と成鳥の違いか、体の色や白・黒・グレーの配色も違っている。
湖西路を車で通過中、雨の中たたずむ4羽を発見した。
今日から双眼鏡を持参した。頭部の細かい特徴はわかりづらいが、アオサギとシラサギの違いはよくわかり、シラサギがアオサギと比較してかなり小さいので「チュウサギ」かな？
和邇川河口附近の浅瀬に鴨らしきコロッとした体型の黒っぽい鳥6羽がいたが、近づくると飛び立ち対岸の畑に消えた。蛙の大合唱は声をひそめた感じ。時々鳴いている。
車で通行中に発見。小雨の中、水田の端に5羽並んでたたずんでいた。
水田にいるシラサギは、歩いて移動しながらエサを探している。和邇川の中にいたアオサギはバシャ！と水中に顔を突っ込みすぐに飛び立った。エサが取れたかどうかは確認できず。
エサを探している様子。
雨上がりでいつもより川の水が多め。アオサギがとどまったり飛んで少し場所を変えてエサを探している。
水田の中を少し歩いてその後飛び立った。蛙の鳴き声がよく聞こえていた。
朝食を探している様子。梅雨に入り蒸し暑い。和邇川河口附近は他の鳥も数羽いた。
水田の中を歩いて移動しながら何かを見つけて食べている。
大量の長雨は止んだが、和邇川も水量が多く水田も水が多い感じ。大木の一番高い所にアオサギ5羽見えた。民家近くに多くのツバメが飛んでいた。
長雨がようやく止んで久しぶりの太陽。今宿の群か？いつもと違ってあぜ道中心に、多数かたまって多くが羽を広げて乾かしている。ハウス上のトンビも羽を広げ太陽を浴びている。人も鳥も太陽を待ってたんだネ。
ひどい雨降り3日目。鳥達はどこで雨宿りしてるのでしょうか。
休耕田にエサを求めて降りてきたようだ。たぶん木の岡から飛来してきたのではないかな。
木の上にそれぞれ巣を造って生息している。団地の中なので近隣住民の迷惑になっているようだ。
オオバナミズキンバイの広がる岸に近い所に静かに立っていた。道路より岸に近づいて写真をと構えたところに飛び立ってしまった。
洗堰の下流側の瀬田川には、樹木も育ち草地もある。その護岸堤防の上にとまっていたが、近づくるとすぐに上流へ向かって飛び立ってしまった。

この田にはアオサギも、たびたびコサギがいることもある。稲の苗の丈がまだそれほど高くない時分である。8月になってから、千丈川上流の川原の同じ場所にアオサギが1羽、川の中の生き物を探して上流下流を川原の上を行ったり来たり飛ぶのを何回か見かけた。（8月になっていたので調査票には書けませんが・・・）
田の中で何か生き物をついばむ様子が見えた。じっと見ていたら、気配に気付いたらしく、さっと飛び去った。
池でつかまえたカエルをくわえて、ちょうど飛び立つ瞬間を目の前で見た。大きなカエルだったのでウシガエルかもしれない。
澱田川内湖の中には、鳥たちが体を休めるための小さな小屋と台があり、その上に佇んでいた。
いつものように少し田の中を歩いて、何かを探すようだった。
猛暑の1日だった。人も暑さに耐えがたい午後。たくさんのサギたちが、瀬田川の川幅いっぱいにあちこちでじっと佇んでいた。サギも熱中症予防でそうしているらしい。この場所で8月19日チュウサギ（7/29に見たのはチュウサギの幼鳥であり、その後育って大きくなったのかもしれない。）27羽。アオサギ1羽が同様に川の中でじっとしていた。
漁のエリにとまっていた。
梢で休んでいた。（もともとコロニーだったが、昨年10月の大風で枝が折れて居なくなっていた所）
テキスト通りのスタイルで羽を乾かしていました。
琵琶湖大橋から西に伸びるレインボーロードの新宿橋西に新しくできた交差点の北側、「近江舞子しょうぶ苑」の上空を西から東にびわこ方面に向かって飛んでいきました。
アオサギのうち2羽が羽根干し（小雨の中）？
樹上で休憩。羽繕い
ダイサギ？ダイサギと思われるが、クチバシが黄色い幼鳥か？
びわ湖疎水沿で釣りをしているおじさんに釣れた魚をもらうために待っている様に見えた。
稲の植込みの中に立っていた。
釣りをしていたおじさんからブルーギルをもらって1口でパクリ。釣れるのを待っていた様です。
田の中で食べ物を探している様子。
釣りをしているおじさんに魚をもらえるのを待っている。いつもの風景である。
釣人から魚をもらえるのを待っている。
何かを食べている様子。
釣人よりつれた魚をもらうのを待てる。いつもの様子。
釣り人から魚をもらうのを待っている。
田のあぜ道で何かを取っている様子。
釣り人から釣れた魚（ブルーギル）をもらうのを待っている様。
今日は少し大きめのアオサギで釣り人から魚をもらえるのを待っていた。ネコも待っている。
田の中の食べ物を取っていたのか時々下を向いたり上を向いたりしていた。
細身で田んぼのあぜ道に立っていた。
桐生方面に向かいました。
岸の草むらに立っていた。羽の先が黒い。クチバシが大きい。
川に立って魚を狙っていた。
内湖の上空を北の方へ飛んで行った。
魚を狙っていた。飛び立った時、足指が黄色だった。

今回の鷺の調査は大いに期待しておりましたが、調査が始まる頃から急に鷺の姿が見られなくなりました。四月頃（田植え前後）はよく見られたので楽しみにしておりましたが、少ない結果になり申し訳ありません。
約10m間隔で魚を狙っていた。
暑い陽差しの中、広い田んぼのまん中でじっと立ちすくんでいた。
真っ白。バイクで15mほど離れた道を走行していると飛んで逃げた。
白。2羽とも飛んでいた。和邇駅方面へ。
白。西方向から飛んできた。
羽根が灰色。バイクで川のそばを走っていたら、川の中から飛び立った。しばらくしてまた川のそばに戻ってきた。
川の草むらで食べ物？を探しているようだった。
報告書、送付させていただきます。今後も環境活動に親子で参加させていただきます。私達と同じ生活圏にサギが健やかに生息してくれていて、とても嬉しく思いました。いつまでも共存できることを心から願っています。その為に私達ができることも学んでいければと思います。
川の中に立ってました。
アオサギ（おそらく幼鳥）上空を飛んでいました！
「山宗」に行った際に見かけました！
川の上を川上から川下へ飛来し、川中の大きな石の上にとまり、しばらくたたずんでいた。
夜中の大雨で川が増水、濁っていたが、川ふちにたたずんで水面を見ていた。しばらくして川上を飛んでまた川べりにたたずんでいた。
以前から坂本5丁目大宮川樹下橋付近では（5235-4689）、よくアオサギやカモ類の水鳥をよく見かけています。よく見かけるのでたくさん報告できると思っていたのですが暑さが増してくると見かけなくなりました。結局6/28の目撃が最後でした。涼しくなったらまた見かけるかな？と思っています。サギの調査&報告は修了しますが、子供たちと鳥の観察は楽しんで続けて行きたいと思います。
水田でエサとり
千丈川でエサとり
洗いぜき下の水位の低いところでエサをとっている様子。
エサをとっている様子
木にとまっていた。
エサとりか？多数いる。
竹林にとまり、2羽は下の川にいる。
湿度が高い一日、二、三枚続く田んぼで最近が開発が進み回りに家が増えてきた。
早朝4時頃から「ギャーギャー」と鳴き出します。
大きなアオサギが民家の屋根の上にいるのを初めて見ました。近くにはアオサギの巣（コロニー）があります。
電車の中から雨の中アオサギがいるのを見ました。
10羽以上のコサギ？が群れて飛んできて、浄化センター近くの林の1つの木に集団で下りました。
時々頭を水の中につっこんでいた。
歩いていた。
川の中にくちばしをつっこんでいた。びわこ方面に飛んでいった。
飛行中でした。
洗堰下流の中洲にカワウの群れと共にいました。

大戸川の中洲にいました。
青山の調整池の岸边にとまっていた。
6/9に見たアオサギと同一個体かもしれません。
6/9には1羽しか見ていないので、この日見た3羽のうち2羽は6/9に見たものとは別個体と思われます。
湖上に立つえりの上に止まっていた。
山の中のため池の上空を飛んでいました。
堤防の上に1羽でいました。
普段から近所で野鳥観察をしていることもあり、ある程度の種数を報告できらうと思っていたのですが、最終的には種類としてはアオサギとダイサギの2種類のみの報告にとどまってしまいました。 私の住んでいる所の近所で、サギの仲間を含む水鳥を観察しやすいのはロクハ公園、三ツ池、矢橋帰帆島でいずれも今回の調査の対象外である草津市にあります。近所での水鳥観察はほとんどこの3カ所で行っていたため、いざ大津市内で観察をしようとなった時に、どこが観察に適しているかということが、いまひとつピンとこなくなってしまったというのは反省すべき点だと思います。 このように反省点はありましたが、調査自体にはまた参加してみたいと考えていますので、来年以降も調査を行われるのであれば、またお知らせをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
アオサギ（幼鳥）2m程度の間隔で2羽、まもなく1羽は数m上の田へ移動しました。
黄昏なすむ自宅の庭、ラジオ体操をしていると、西（比叡山側）から北東へ向かってアオサギが飛来、通り過ぎる。コロニーに帰るのか。幼鳥と推測。
いずれも仰木～伊香立へ通じる県道沿いの田園。ダイサギを軽トラック走行中に発見、やや遠め。チュウサギはやや近く、軽トラックを停めて見るが、すぐ飛び立った。
アオサギ（幼鳥）田園からの帰り、軽トラックを停めて見ていると1分もたたないうちに飛び立ちました。
田園への往路、この水田では初めて見る白いダイサギでした。車を停めて暫く見ていると、まもなく飛び去りました。
アオサギ（幼鳥）水田の中に佇んでいましたが、軽トラックを止めると飛び立つ。時々見かけるいつも同じ場所です。
アオサギ（幼鳥）いつもの水田を低く飛行し、中に降り立ちじっと佇んでいました。
アオサギ（幼鳥）夏至黄昏せまる時、アオサギが悠然とやや棚田の環境の田で東（琵琶湖）の方を向いてじっとしていた。
チュウサギ（推測）一羽は田の中で餌を取り、もう一羽は見張り役のように比叡山を見ていた。
我が休耕田の草刈に行ったとき、現場上空をゆっくりと旋回2回し、やがて見えなくなりました。
今日は降りしきる雨でJR運休の為、業務は自宅待機です。田園巡回中、我がたんぼの近くで初めて見ました。1羽のあと暫くしてもう一羽飛来してきました。特に就餌することなく廻りを見ていました。
いつもいる所です。軽トラックを止めるとすぐ飛び立ち約10m上の田園へ降りました。
ダイサギ or チュウサギ、休耕田の草刈中一瞬もしくは数秒のことでした。ふと見るとダイサギかチュウサギが1羽飛行していました。過去2回ほど見たことがあります。航空機のルートならぬ、サギの飛行区域でしょうか。
【調査後の総合所見】仰木は、広々とした河川敷等ない環境で、田園への小動物捕獲以外、生息、活動は少ないようです。7月下旬以降、稲も大きくなり捕食もままならなくなって見かけなくなりました。
夢中になって狩りをしていた。
見つけた所の周りにはセグロセキレイなどの鳥がいた。家の屋根にいた。
南西の方に飛んでいった。

南東に二羽同じ方向に飛んでいった。
夢中になって狩りをしていた。幼鳥もいた。
まわりにはケリやオオヨシキリやツバメがいました。
午前中に南の方から飛んできて、夕方南の方にかえっていく。
数羽のカモと湖岸にいて、そこから飛びたち漁のエリへ。そこにはアオサギがいました。
漁のエリにとまってじーっとしていた。
ダイサギ（シラサギ）。猛烈な暑さの日、川の堰の近くにいたが100mほど下流に飛んで移動。その後、湖西線の高架にとまり飛んで行った。
猛烈な暑さの日、シラサギと同じところにいました。一目でアオサギと分かった。近くに行くとすぐ飛び立った。大きくて白黒の羽を広げた姿が美しかったです。（ゆっくりみたことなかったの。）
シラサギのように見えた。川の中に足だけつかってじっとしていた。
シラサギ（ちょっとよくわからなかった）。木の枝にしばらく止まっていた。小柄なサギに見えた。
大雨であったのもかわらず、サギには関係のないようでいつもと変わらず普通にえさとり（？）などをしていました。飛んでいるところは見られなかったのですが、この大雨の中、どのように飛ぶのかも見てみたかったです。
この日も前日に続き大雨でしたが、普通に見ることができました。
少しはなれた位置でしたが、アオサギとコサギが一緒にいるところを見られました。
アオサギとコサギが一緒にいるところが見られました。（2羽は少し離れたところにいましたが）
一度に3羽が一緒にいるところは初めて見られました。
またアオサギとコサギが一緒（同時）にいるところが見られました。
またアオサギとコサギが同時に見られました。これまでの個体と同じ組み合わせかもしれません。
体の色や形等から、報告書のアオサギは、成鳥少し前のものかもしれません。くちばしの色で判断できるのか分からないのですが、報告書のコサギのくちばしは、資料にあるような濃い黒色ではなかったの、もしかするとチュウサギが含まれているかもしれません。きちんと調べきれず、申し訳ありません。田んぼのあぜには、中身の無いザリガニの殻、タニシの殻がたくさん落ちていたので、サギが食べた後かもしれません。ただ、ほかの鳥（トンビ、カラス、スズメ、ハト、ツバメ、コウモリなど）もいるので、サギの食べあとかどうかはわかりません。ほかに、水田には、オタマジャクシやカエルが、水田の近くの小川には、ハエくらいの大きさの魚やサワガニなどもあります。草むら等には、バッタ類やコオロギ、カマキリ、テントウムシ、コガネムシ、カメムシ、チョウやトンボ、ハチ、セミがたくさんいます。十分に調べきれずに、求められている報告になっているかはわかりませんが、少しでも役に立てていただければ、嬉しいです。
青田植えのすんだ頃、4羽の（2羽雑種）サギがいました。
青田植えのすんだ頃、きれいなサギがいました。（橋からの眺め）
田んぼが、青々としてきた頃、サギが立ち止まっていました。
サギが、飛び立っていきました。きれいでした。
水田の中で、サギが、歩いていました。
水田の田んぼからサギが飛び立っていきました。
他の日も調査したが、サギ類は皆無であった。どこにいつているのか？今年は暑くて調査にいく日が2～3日と少なく、またサギは見つけられなかった。
じっとしていた。2羽とも
人が近づくとすぐに距離をとっていた。もう夏ごろなのに口ばしが黄色で黒が少し混じっていた。風が強くてすごい速さで飛んでいた。

水田の続く所、カメラを向けたが飛び立った。その日はアマガエルが（小ぶり）いた。
稲の植付から2週間位農薬の影響かオタマジャクシを見かけなくなった。

調査員の皆様からいただいたサギの写真です。特に表情が良かったものやコロニーの様子がよく分かるものを一部御紹介します。

ダイサギ



ダイサギ



ダイサギ



ダイサギ



ダイサギ



チュウサギ



アオサギ



アオサギ



アオサギ



アオサギ



アオサギ



アオサギ



アオサギ（幼鳥）



アオサギ（幼鳥）（左）、ダイサギ（右）



ゴイサギ



アマサギ（左）、チュウサギ（右）



コロニー



コロニー



コロニー（調査期間外）



この他にも、多くの写真を送っていただきました。
誠にありがとうございました。